

暑寒別，天壳，焼尻国定公園
指定促進調査(自然環境)報告書

(動物編)

昭和 59 年度

北 海 道

は し が き

この調査報告書は、暑寒別道立自然公園地域及び天売焼尻道立自然公園地域について、国定公園の指定促進に資することを目的として、北海道が社団法人北海道自然保護協会に委託して実施した動物、植物、地形・地質に係る調査結果をとりまとめたものである。

本調査は社団法人北海道自然保護協会会員の諸先生方を中心に実施されたものであり、調査に参画された方々及び調査について種々御協力をいただいた関係機関の方々に対し、厚くお礼申し上げます。

なお、本編は、調査各部門のうち動物部門についてとりまとめたものであり、植物、地形・地質及び調査結果の総括については、別冊（植物、地形・地質、総括編）公表としている。

調査担当者

（動物）

— 哺乳類，鳥類 —

島田 明 英（野生生物情報センター）

— 昆虫類 —

久万田 敏 夫（北海道大学）

目 次

は し が き

第I章 哺乳類

第1節 研究小史	1
1 島嶼部	1
2 陸域部	1
第2節 調査地点と調査方法	1
第3節 調査結果及び考察	3
1 調査結果	3
2 考 察	3
3 哺乳類目録	6
(1) 島嶼部	6
(2) 陸域部	6

第II章 鳥 類

第1節 研究小史	7
1 天売島	7
2 焼尻島	9
3 陸域部	9
第2節 調査地点と調査方法	9
1 林 道	11
2 登山道下部	11
3 雨竜沼湿原	11
4 登山道上部	11
第3節 調査結果及び考察	11
1 調査結果	11
(1) 林 道	14
(2) 登山道下部	14
(3) 雨竜沼湿原	14
(4) 登山道上部	14
(5) シマフクロウ調査	15
(6) 海鳥コロニー調査	15
2 考 察	15
(1) 島嶼部	15
(2) 陸域部	16

3 鳥類目録	18
(1) 島嶼部	18
(2) 陸域部	21
第Ⅲ章 昆虫類	
第1節 研究小史	25
1 暑寒別岳とその周辺地域	25
2 焼尻島・天売島	26
第2節 調査地点及び調査方法	26
第3節 調査結果及び考察	29
1 暑寒別山塊	29
(1) 低山帯	29
(2) 雨竜沼湿原	30
(3) 高山帯	31
2 焼尻島・天売島	36
3 昆虫目録	36
(1) 陸域部(暑寒別山塊)	38
(2) 島嶼部(焼尻島・天売島)	52

第I章 哺乳類

島田明英

第1節 研究小史

1 島嶼部

島嶼部における哺乳類の記録は非常に少なく、鳥類調査報告の中でエゾヤチネズミの天売島における生息が記されているのみである(環境庁, 1973)。海獣類では苫前—天売航路でイシイルカが観察されている(黒田, 1963)。

2 陸域部

高橋(1974)により、エゾトガリネズミ、ウサギコウモリ、エゾヤチネズミ、シマリス、エゾリス、エゾユキウサギ、キタキツネ、エゾタヌキ、ホンドイタチ、エゾクロテン、ヒグマ、の11種が増毛山塊の哺乳類として報告されている。

北海道(1978)によれば、エゾシカ、ヒグマ、キタキツネ、エゾタヌキが生息するとされている。エゾシカについては、生息する地域は限られており、季節的に出現するとされている。

第2節 調査地点と調査方法

調査ははじきわな(パンチュートラップ)によるノネズミ類の捕獲調査と、足跡等の痕跡調査、目視によって行った。

捕獲調査はT₁～T₅の調査点において行った(図1)。T₁、T₂においては6月27～29日、T₃～T₅においては7月18～20日の各3日間行った。わなは各調査点に30個、線状に設置した。

各調査点の環境は次の通りである。

T₁: 南暑寒荘東側の混交林

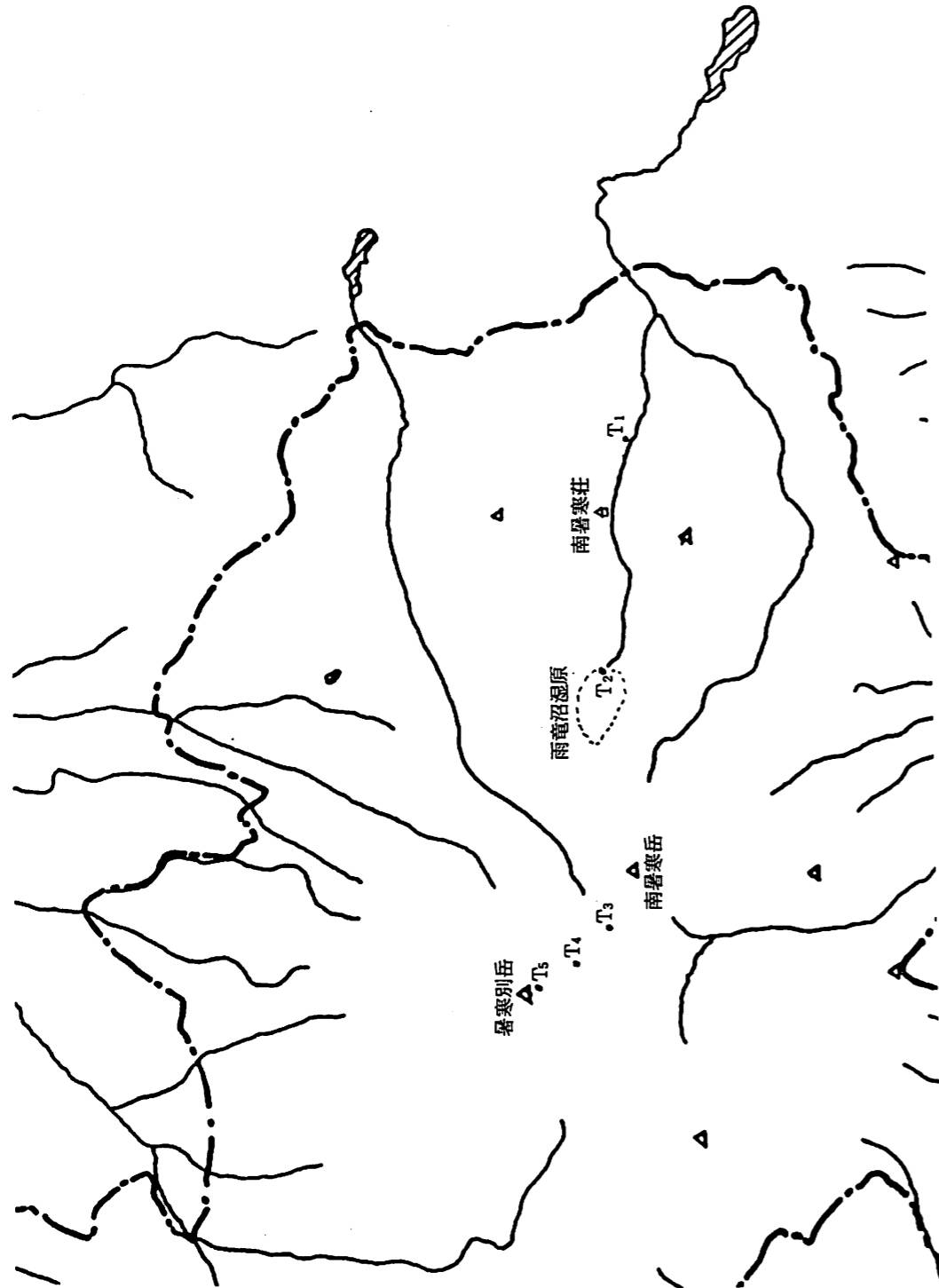
T₂: 雨竜沼湿原の東端のササ原

T₃: 南暑寒岳—暑寒別岳間のコルのササ原

T₄: 暑寒別岳南東尾根上のハイマツ林

T₅: 暑寒別岳山頂直下のハイマツ林

痕跡調査は鳥類センサスルート及びその周辺において6月27～29日、7月18～20日、1月23～25日に行なった。このほか調査地間の移動途中などにも痕跡の発見につとめた。



第3節 調査結果及び考察

1 調査結果

捕獲調査では3種のノネズミ類が捕獲された(表1)。ヒメネズミの捕獲数が最も多く、すべての調査点で捕獲された。ミカドネズミはT5 1カ所のみ、エゾヤチネズミはT3, T5の2カ所で捕獲された。

表-1 捕獲調査結果

	T ₁	T ₂	T ₃	T ₄	T ₅
エゾヤチネズミ			1		2
ミカドネズミ					1
ヒメネズミ	3	2	2	8	4

痕跡・目視調査では以下の種が記録された。

オオアシトガリネズミ：6月にペンケペタン川沿の林道で死体が1頭取得された。

エゾユキウサギ：1月に尾白利加川、ペンケペタン川沿の林道周辺において足跡が多数見られた。

エゾリス：1月にペンケペタン川沿で足跡が見られた。

シマリス：7月に南暑寒岳、暑寒別岳周辺の主にハイマツ帯で多数目撃された。登山道上にハイマツの球果の食痕が見られた。

ヒグマ：7月に暑寒別岳山頂より約500m南側のガレ場で足跡が見られた。また、同日、営林署作業員により南暑寒岳東側のササ原において目撃されている。

キタキツネ：6月に雄冬～増毛間の道路において3頭が、尾白利加川沿いの林道において1頭が目撃された。1月に尾白利加川沿いの林道で足跡が見られた。

エゾクロテン：1月にペンケペタン川周辺において足跡が見られた。

イイズナ：1月にペンケペタン川周辺において足跡が見られた。

2 考察

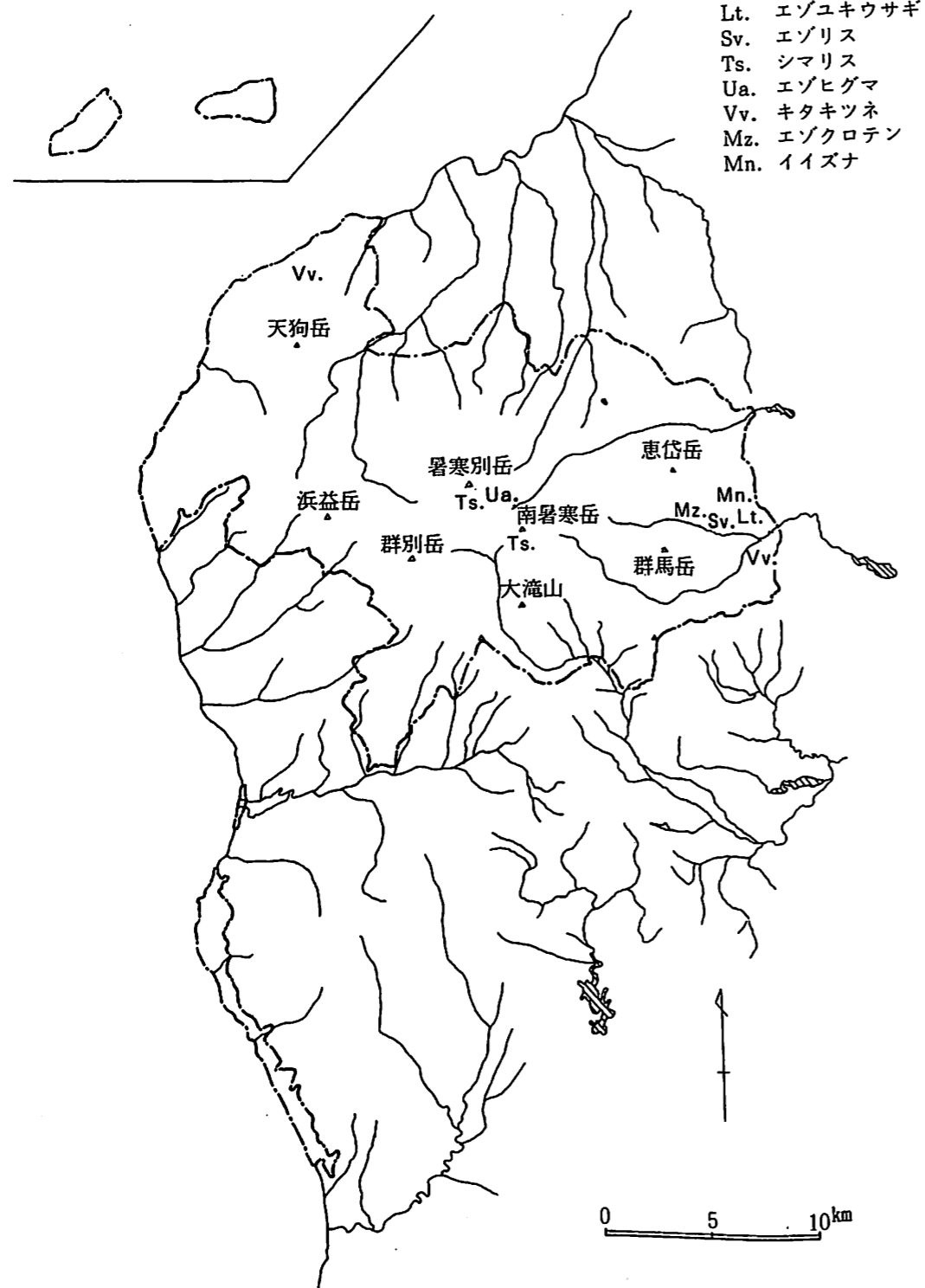
島嶼部においてはエゾヤチネズミが記録されているのみである。哺乳類の詳しい調査は行われていないが、中・大型哺乳類は生息しないものと考えられる。

陸域部においては16種が記録されている。小哺乳類では捕獲調査により、ヒメネズミがハイマツ帯、ササ原、混交林のいずれの環境においても多かった。しかし、ノネズミ類は個体数の変動が大きいのでこれが一年を通しての傾向であるかどうかは不明である。

哺乳類相については、翼手目を除きほぼ明らかにできたと考えられる。道内に広く生息している今回の調査で確認できなかった種としては、アカネズミ、エゾモモンガがあげられる。

生息密度については明らかではない。痕跡調査では、エゾユキウサギの痕跡が広範囲にわたって多数見られ、比較的個体数が多いと思われる。エゾヒグマは暑寒別岳で足跡が記録されたが、登山

図-2 哺乳類目撃・痕跡調査結果



者の目撃例もしばしばあるようである。エゾシカは季節的に生息するとされているが、当地域は多雪地域であり、生息数は極く少ないと思われる。

〈引用・参考文献〉

- 1) 北海道 (1978), 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書 (哺乳類) 22PP
- 2) 環境庁 (1973), 天売島, 特定鳥類等調査: 63-81
- 3) 黒田長久 (1963), 天売島海鳥調査 (附陸鳥), 山階鳥類研究所報告, 3(5): 61-79
- 4) 高橋明雄 (1974), 増毛地方の自然, 増毛町史: 3-45

第II章 鳥 類

島田明英

本調査を実施するにあたり、現地調査では富沢昌章氏（北大農学部）に御協力頂いた。
また、既存資料の収集にあたっては寺沢孝毅氏（天売小学校）に多大な御助力を頂いた。記してお礼申し上げます。

第1節 研究小史

1 天売島

天売島は海鳥の繁殖地として有名で、国の天然記念物に指定されている（昭和13年）ほか、現在国設鳥獣保護区になっている。多くの鳥類研究者が来島し、調査記録を残している。以下、年代順にそれらを記す。

Udagawa（1953）は天売、焼尻島を調査し、天売島では28種を記録してそれぞれの種の生息状況を報告した。渡り鳥の中継地としての重要性を指摘した。また、ウミガラスの生息数が減少しているため保護の必要性があるとした。

村田（1958）は天売島におけるウミスズメの繁殖を確認し、報告した。繁殖地は燈台の南方で、礫岩に腐植土を混じえた急崖の間隙に枯草を敷いて巣としていた。約500羽が営巣していた。ウミスズメの繁殖は黒田（1963）も記している。しかしその後ウミスズメは繁殖しなくなったとされている（環境庁、1973）。

黒田（1963）は海鳥の繁殖状況について調査し、繁殖羽数を推定した。これによればウミネコ50,000羽、オオセグロカモメ100羽、ウトウ100,000羽、ウミガラス800羽、ケイマフリ3,000羽、ウミウ100羽とされている。また苫前—天売島間の海域で海鳥のセンサスを行った。陸鳥については24種を記録した。この中には北海道には生息しないとされていたサンショウクイの記録があり、巣立雛を連れていたことから繁殖が示唆されている。

阿部（1967）はウトウの生態を調査し、野犬によりウトウが捕食されていることを報告した。

竹内（1971）は既存の記録と自らの観察をもとに67種のリストをまとめた。この中にはコケワタガモ、カワウ、マダラウミスズメ、エトロフウミスズメなどが含まれている。

環境庁（1973）は特定鳥類等調査の一環として天売島の調査を行っている。環境調査として、土地利用状況、観光客数、漁獲高、植生等に触れている。繁殖している海鳥、ウミウ、ウミネコ、ウミガラス、ケイマフリ、ウトウについて、地域ごとの密度を算定し、食性、繁殖行動についても記している。繁殖地の保護についても言及し、立入禁止の柵、案内板の設置、指導員の常駐を提言している。

小山・入江（1973）は4日間の観察に基づき19種を報告した。入江（1974）は次の年も来島

3 哺乳類目録

(1) 島嶼部

齧歯目

ネズミ科

1 エゾヤチネズミ

(2) 陸域部

食虫目

トガリネズミ科

1 エゾトガリネズミ

2 オオアシトガリネズミ

翼手目

ヒナコウモリ科

3 ウサギコウモリ

兔目

ウサギ科

4 エゾユキウサギ

齧歯目

リス科

5 エゾリス

6 シマリス

ネズミ科

7 ミカドネズミ

8 エゾヤチネズミ

9 ヒメネズミ

食肉目

クマ科

10 エゾヒグマ

イヌ科

11 エゾタヌキ

12 キタキツネ

イタチ科

13 エゾクロテン

14 ホンドイタチ

15 イイズナ

偶蹄目

シカ科

16 エゾシカ

し25種を報告した。

特定鳥類等調査の2回目が環境庁(1978)により行われ、海上における鳥類の分布、島内の海鳥のカウント、ウトウ巣穴密度の測定、ウトウの日周行動調査、陸鳥センサスが行われた。ウトウは赤岩展望台の西200mの地点より北西方向2.4kmにわたって営巣していた。巣穴はイワノガリヤス群落内で最も密に分布し、167穴/100㎡であった。イタドリ群落内では密度は最低で68穴/100㎡であった。巣穴密度から総個体数を605,120羽と試算した。日周行動は18:00~19:00が帰島時、19:00~20:00が帰巣時、20:00~3:00は営巣地での活動、3:00~7:00が離巣時、7:00~8:00が離島時にあたるといふ。ウミガラスは赤岩、屏風岩、兜岩とその周辺に営巣し、全島で470羽が数えられた。ウミネコは赤岩燈台南東の崖地から北西1.1kmまでの断崖及び斜面の一带に分布し16,000羽が数えられた。オオセグロカモメは局所的に分布し、76羽が数えられた。ウミウは赤岩、屏風岩、観音岬南西の崖地、黒崎海岸の岩礁に営巣し、473羽であった。陸鳥調査は、集落、ササ中心の草原、灌木や二次林が混じる草原、丈の高い草が中心となる草原の4つに分けて行われ、11種を記録し、それぞれの環境における優占種を明らかにした。これらの調査結果を踏まえ、鳥類保護上の問題点を提起している。

北海道立林業試験場(1978)は林帯造成基礎調査と野鳥生息調査を行い、23種を記録した。

天売島には環境庁の2級鳥類観測ステーションが設けられており、そこでの標識調査の結果が報告されている(山階鳥類研究所, 1978, 1979, 1980, 1981, 1982, 1983)。主に標識放鳥されている種はウミウ、オオセグロカモメ、ウミネコ、ウトウである。中でもウトウの放鳥数が最も多く、毎年数百羽以上を放鳥している。陸鳥類ではノゴマ、ルリビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、キクイタダキ、アオジ、アトリ、マヒワ、ベニヒワ、スズメ、ヒバリ、ハクセキレイ、ジョウビタキ、ミヤマホオジロ、アオジ、シメ、カシラダカ、アリスイ、などが少数標識放鳥されている。多数放鳥されている海鳥については回収記録も蓄積されている。ウミウは道内では積丹半島の古平、余市、道東の根室、函館の回収例があるほか、本州の青森、秋田、新潟、静岡、島根で回収されている。ウミネコは本道沿岸のほか、新潟、和歌山、四国の高知、九州の長崎での回収例がある。ウトウは放鳥数が最も多いため回収例も多い。大部分は稚内~小樽といった放鳥地近くの海域で漁網にかかったものである。遠距離の例としては、宮城、福島、石川、島根の各県の沿岸で回収されている。

継続的な調査記録としては、寺沢(1983)のものがある。これは57年4月から58年8月までの記録である。32科114種が記録され、それぞれの種の生息する月が示されている。アカガシラサギ、ヤツガシラ、ツメナガホオジロ、など我が国では稀な種が記録されているほか、アカゲラ、シマエナガ、メボソムシクイ、キクイタダキの渡りについて報告されている。

最近の調査では、鳥類相や繁殖状況、渡りなどについてだけでなく、海鳥のコロニーを対象とした生態学的な研究も行われている。Watanuki(1982, 1983)、綿貫(1984)は捕食者たるハシブトガラス、オオセグロカモメと、被捕食者たるウミネコ、ウトウの関係を調査し、被捕食者の捕食者に対する防衛行動、捕食者の餌選択における傾向について考察している。オオセグロカモメは6月にはウトウのヒナを、6月下旬~7月にはウミネコのヒナを捕食している。ハシブトガラスは4月下旬、5月に卵を捕食し、6月下旬にウトウのヒナを捕食している。

2 焼尻島

焼尻島は天売島のように海鳥の集団繁殖地とはなっていないため鳥類の調査記録は少ない。

Udagawa(1951)は55種を報告し、それぞれの生息状況を述べた。この中には、シマゴマ、ブッポウソウなどの記録が含まれており、ハヤブサの繁殖が示唆されている。また、ヒバリに混じって亜種カラフトチュウヒバリが繁殖していることを記している。

小山・入江(1973)は4日間の観察により17種を報告した。

北海道立林業試験場(1979)は森林の調査とともに鳥類の調査を行い、33種を記録した。鳥類の生息環境を海岸、草原、林縁、高木林、人家付近に分類し、それぞれに生息する鳥類を明らかにした。そして天売島と比較して、海岸、草原に生息する種の数には差がないが、低木林、高木林に生息する種は焼尻島の方が多いいことを明らかにした。

3 陸域部

陸域部での鳥類の調査報告は非常に少ない。高橋(1972)は増毛市街地周辺の冬の鳥として17種を記している。

高橋(1973)は再び増毛地方で冬期見られる鳥として29種をあげているが、この中にはオオワシ、オオハクチョウ、マガン等渡り途中のものと思われる記録が含まれている。

高橋(1974)は増毛地方の自然についてまとめ、その中で85種の鳥類リストを記している。また、それぞれの種の生息状況についても述べている。

河井(私信)は1984年、暑寒別岳にてイヌワシを目撃している。

石川(1984)はペンケベタン川流域の鳥類について紹介しているが、その中にはカワセミ、ヤマセミのほかシマフクロウ、クマゲラをあげている。

第2節 調査地点と調査方法

調査はラインセンサス法によって行った。調査ルートを時速約2kmで歩き、左右それぞれ25m以内に出現した鳥類の種名、個体数等を記録した。25mのセンサス範囲外に出現したものは種名のみ記録した。

島嶼部については既存文献によってほぼその鳥類相が明らかになっていると考えられるので現地調査は行わず、これまで調査がほとんど行われていない陸域部においてのみ現地調査を行った。

調査ルートは雨竜~暑寒別岳の林道、登山道に設けた。調査ルートは以下の通りである(図-1)。

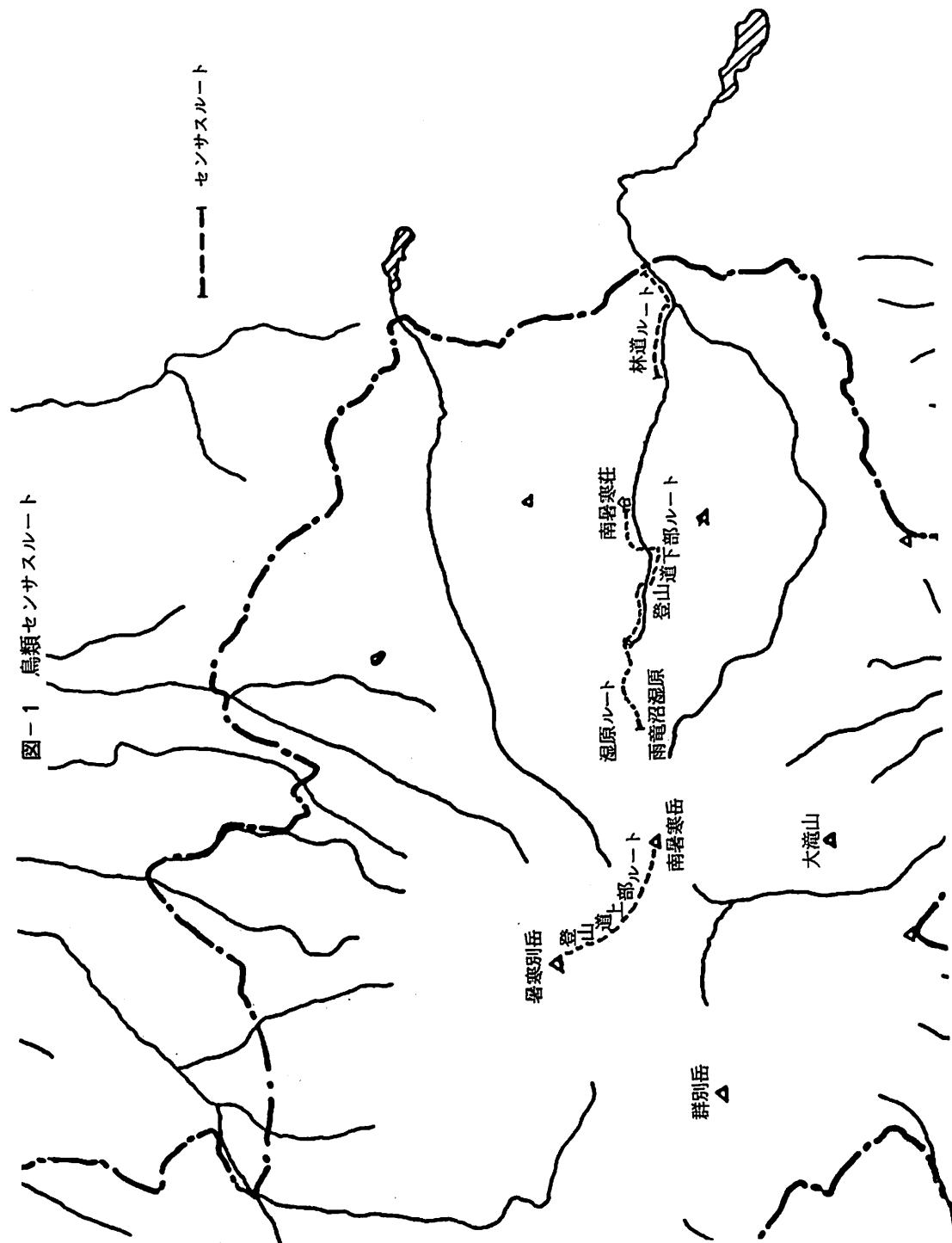


図-1 鳥類センサスルート

1 林道

尾白利加川およびペンケペタン川沿いの林道の標高240 m～360 mの間にルートを設定した。植生はシラカバ、イタヤカエデなどの広葉樹二次林を主とし、一部カラマツ人工林、高茎草原が混じり、比較的開けている。距離は3 kmである。センサスは6月に3回（6/27, 28, 29）、1月に2回（1/24, 25）行った。

2 登山道下部

南暑寒荘から雨竜沼湿原入口までの2.5 kmのルートである。標高は540 m～860 mである。調査ルート中最も急傾斜である。植生は比較的良好な閉じた広葉樹林である。センサスは6月に3回（6/27, 28, 29）、7月に2回（7/16, 20）行った。

3 雨竜沼湿原

湿原の入口から最上流部まで約3 kmのルートである。標高は860 mの平坦地である。植生は湿原であるが一部にササ原、池塘を含む。センサスは6月に3回（6/27, 28, 29）、7月に2回（7/16, 20）行った。

4 登山道上部

南暑寒岳から暑寒別岳の間の登山道4 kmをルートとした。標高は1,080 m～1,491 mである。植生はササ原が最も広くを占める。両山頂部にはハイマツ帯が広がるほか、一部にタカネナナカマドなどからなる広葉樹林が小面積、パッチ状に成立している。センサスは7月に3回（7/17, 19, 20）行った。

ラインセンサス以外に、シマフクロウの生息確認のため、尾白利加川において6月、1月の調査時に、夜間、鳴き声の調査を行った。

第3節 調査結果及び考察

1 調査結果

現地調査により58種の鳥類が記録された。以下ルート別にその特徴を記す。

表-1 林道 3km

	1984. 6. 27 ~ 29		1985. 1. 24・25	
	N/km	dom%	N/km	dom%
トビ	+			
イソシギ	+			
キジバト	0.33	1.7		
カッコウ	+			
ツツドリ	+			
ヨタカ	+			
ハリオアマツバメ	1.33	6.7		
アマツバメ	+			
アカゲラ	0.67	3.4	0.33	6.3
キセキレイ	0.33	1.7		
ビンズイ	+			
ヒヨドリ	1.00	5.2		
モズ	0.33	1.7		
カワガラス			+	
トラツグミ	0.33	1.7		
クロツグミ	0.33	1.7		
ヤブサメ	0.67	3.4		
ウグイス	1.67	8.6		
センダイムシクイ	1.67	8.6		
キビタキ	0.67	3.4		
エナガ			3.00	56.3
ハシブトガラ			1.00	18.8
シジュウカラ	0.67	3.4		
ゴジュウカラ			0.33	6.3
ホオジロ	2.67	13.8		
アオジ	4.00	20.7		
ベニマシコ	1.00	5.2		
ウソ			0.67	12.5
イカル	0.33	1.7		
シメ	0.67	3.4		
ニューナイスズメ	0.67	3.4		
合計密度	19.33		5.33	
種類数	26		6	
	31			

表-2 登山道下部(南暑寒荘-雨竜沼) 2.5 km

	1984. 6. 27 ~ 29		1984. 7. 16・20	
	N/km	dom%	N/km	dom%
ヤマシギ	+			
キジバト	0.40	1.8		
ジュウイチ	+			
カッコウ	+			
ツツドリ	+			
ハリオアマツバメ	+			
アカショウビン	+			
アカゲラ	0.40	1.8		
コゲラ	0.40	1.8		
キセキレイ	0.80	3.6	0.80	9.1
ビンズイ	0.80	3.6		
カワガラス	0.40	1.8		
ミソサザイ	1.20	5.5	0.80	9.1
コマドリ	0.80	3.6	0.40	4.5
コルリ	1.60	7.3	0.40	4.5
トラツグミ	+			
アカハラ	0.40	1.8		
ヤブサメ	0.40	1.8		
ウグイス	0.80	3.6	1.20	13.6
エゾムシクイ	2.40	10.9	1.20	13.6
センダイムシクイ	0.40	1.8		
キビタキ	2.00	9.1		
オオルリ	1.60	7.3		
サメビタキ	0.80	3.6		
ハシブトガラ	0.40	1.8	0.40	4.5
ヒガラ	0.80	3.6		
シジュウカラ	1.20	5.5	0.80	9.1
ゴジュウカラ	0.80	3.6	0.80	9.1
ホオジロ	0.40	1.8		
アオジ	1.20	5.5	1.20	13.6
クロジ	0.40	1.8	0.80	9.1
ベニマシコ	0.80	3.6		
ウソ	+			
ハシボソガラス	0.40	1.8		
合計密度	22.00		8.80	
種類数	34		11	
	34			

表-3 雨竜沼湿原 3km

	1984. 6. 27 ~ 29		1984. 7. 16・20	
	N/km	dom%	N/km	dom%
マガモ	+		0.33	5.9
トビ	+			
ノスリ	+			
ヤマシギ			+	
オオジシギ	0.67	7.7	+	
カッコウ	0.33	3.8	+	
ツツドリ	+			
ヨタカ			+	
ヒバリ	1.33	15.4	0.33	5.9
キセキレイ			0.33	5.9
モズ	0.67	7.7	0.67	11.8
ノゴマ	1.00	11.5	1.00	17.6
トラツグミ			+	
アカハラ	0.33	3.8		
ウグイス	0.67	7.7	0.67	11.8
エゾセンニュウ			+	
シジュウカラ	0.33	3.8		
アオジ	0.67	7.7	0.67	11.8
カワラヒワ	1.67	19.2	0.67	11.8
ベニマシコ	0.67	7.7	0.33	5.9
ウソ			0.67	11.8
ハシブトガラス	0.33	3.8		
合計密度	8.67		5.67	
種類数	16		16	
	22			

表-4 登山道上部(南暑寒岳-コル-暑寒別岳) 4km

	1984. 7. 17・19・20	
	N/km	dom%
ヤマシギ	0.25	1.0
ツツドリ	+	
ハリオアマツバメ	0.25	1.0
アマツバメ	1.50	5.7
コゲラ	0.25	1.0
イワツバメ	0.25	1.0
ミソサザイ	0.50	1.9
カヤクグリ	3.75	14.3
コマドリ	+	
ノゴマ	7.50	28.6
ルリビタキ	0.50	1.9
トラツグミ	1.25	4.8
アカハラ	0.50	1.9
ウグイス	4.75	18.1
アオジ	2.25	8.6
カワラヒワ	1.00	3.8
ベニマシコ	0.25	1.0
ウソ	1.25	4.8
ハシブトガラス	0.25	1.0
合計密度	26.25	
種類数	19	

(1) 林道

繁殖期の調査では26種が記録された。記録種類数では登山道下部に次いで多い。アオジが20.7%と最も優占し、次いでホオジロ、ウグイス、センダイムシクイが多かった。アオジ、ホオジロは林縁、疎林に多い種である。このルートは二次林を伐開した林道であり、林道沿いには伐開跡の草地、裸地もあるため、アオジ、ホオジロの好む環境となっている。モズ、ベニマシコ、ニューナイスズメ等の出現もこのような環境を反映したものである。林道は尾白利加川に沿っているため、イソシギ、キセキレイという水辺性の種が記録されている。

冬期の調査はこのルートのみで行った。繁殖期に見られなかったエナガが最も優占したが、種類数、個体数とも非常に少なかった。

(2) 登山道下部

6月には4ルート中最も多い34種が記録された。また全種合計の密度も22.00羽/kmと登山道上部に次いで高い値であった。エゾムシクイが最も優占し、次いでキビタキ、オオルリ、コルリが多かった。これらの種はいずれも広葉樹林性の種であり、広葉樹天然林であるこのルートの環境を反映している。またこのルートは急峻な傾斜地であるが、このことが崖のくぼみに営巣することの多いエゾムシクイ、オオルリの多い理由であろう。コマドリ、ミソサザイも同様の理由で、このルートではよく見られている。このルートは出現種類数が多いだけでなく、群集構成の多様度が高い点の特徴である。

7月の調査では種類数、個体数とも非常に減少している。これは時期が繁殖期の後期にあたって鳥類の活動性が低下したためと、センサスが午後になってしまったためである。

(3) 雨竜沼湿原

記録された種類数、密度とも全ルート中最も少なかった。6月にはカワラヒワが最も優占し、次いでヒバリ、ノゴマが多かった。7月にはノゴマがやや多かった。カワラヒワは環境選択の幅の広い種で、湿原内にも営巣していると思われる。ヒバリ、ノゴマは草原性の種で湿原内で営巣している。ヒバリは湿原全域で10つがい以上生息していた。これらの他に湿原を行動圏としている種としてはオオジシギがあげられるのみで、その他の種は湿原の周辺部に生息するもの、湿原を行動圏の一部としているものである。カッコウ、モズ、ウグイス、ベニマシコは湿原周辺のダケカンバの点にするササ草原や灌木林に生息する種である。マガモは湿原内の池塘で繁殖していた。センサスでは一羽が記録されたのみであるが、湿原全体では最低3つがいの生息が確認された。

湿原は植生の構造が単純で、樹上営巣性の種は生息せず、湿潤なため、ノゴマ、ヒバリのような地上営巣性の種も営巣に適さない部分が多い。そのため鳥類の収容力は小さいと考えられる。

(4) 登山道上部

7月にのみ調査を行った。種類数は19種と多くはなかったが、密度は全ルート中最も高かった。ノゴマが28.6%と最も優占し、次いでウグイス、カヤクグリが多かった。このルートはササ草原(チシマザサ)の占める部分が最も多く、次いでハイマツ林、広葉樹林から成っている。ノゴマは標高にかかわらず、草原、灌木林に見られる種であり、平地の草原にも多いが、大雪山等の高山のハイマツ帯でも高い密度で生息している。このルートではハイマツ帯、ササ草原の両方にわたって記録された。ウグイスはササ草原で優占的に生息する種である。カヤクグリは道内では数少ない高山性の

種である。ハイマツ林、ササ草原でともに見られた。ルリビタキも高山性の種であるが、ササ草原では記録されず、ルート中に一部含まれるタカネナナカマド等の広葉樹林に生息していた。

暑寒別岳の山頂南側には崩壊地があり、岩壁も見られる。アマツバメ、イワツバメが記録されたのは、ここに営巣したものが飛来したものであろう。

以上にあげた以外の種、すなわちヤマシギ、コゲラ、ミソサザイ、アカハラ、アオジ、ウソなどはこのルートの中のわずかな部分を占める広葉樹林で記録されたものである。このルートは全種合計の生息密度が全ルート中最も高かった。これは、ノゴマ、ウグイス、カヤクグリという優占種が高密度に生息していたためで、それ以外の種の密度は概して低く、群集構成として多様度は小さい。

(5) シマフクロウ調査

シマフクロウについては6月、1月の調査時に夜間、尾白利加川、ペンケペタン川沿いにおいて鳴声による確認を試みたが、確認することはできなかった。

(6) 海鳥コロニー調査

増毛町赤岩岬、雄冬岬においてウミウ、オオセグロカモメの集団繁殖が見られた。コロニーは小規模で、道路からの観察ではウミウ80巣、オオセグロカモメ7巣が確認された。道路から観察できない部分にも親鳥が出入りしていたので、実数はもっと多いものと考えられる。

2 考 察

(1) 島 嶼 部

天売島において157種、焼尻島において64種、合計164種と非常に多種類の鳥類が記録されている。

天売島は海鳥の繁殖地としてたいへん重要である。繁殖する海鳥はウトウ約6万羽、ウミガラス470羽、ウミネコ16,000羽、オオセグロカモメ76羽、ウミウ473羽、ケイマフリ354羽と推定されている(環境庁, 1978)。海鳥の繁殖地は道内では知床半島、大黒島、ユルリ島、モユルリ島、松前小島等が知られているほか、東北地方の離島や海岸にある。天売島はこれらの集団繁殖地の中で特にウミガラスの繁殖地として有名である。また、観察の困難な多くの繁殖地と異なり、天売島においては鳥類の観察が容易で観光地にもなっている。

天売島は天然記念物として保護されている。しかし、ウミガラスの繁殖の減少が報告されている(黒田, 1963)。また、1956年に確認されたウミスズメの繁殖は(村田, 1958)、近年確認されていない。これらの原因については明らかになっていない。海鳥の繁殖に悪影響を与える要因としては、イヌによる捕食(阿部, 1967)、ネコによる捕食(環境庁, 1973)、観光客による繁殖地への侵入と巣穴の踏み抜き(環境庁, 1973)等が報告されているが、これらは特にウトウに対して影響を及ぼすと考えられている。オオセグロカモメによるウトウ、ウミネコのヒナの捕食、ハシブトガラスによる卵、ヒナの捕食が報告されている(Watanuki, 1982, Watanuki, 1983, 綿貫, 1984)。これら外的要因以外に、営巣する鳥自身による営巣地の破壊が知られている(環境庁, 1978)。ウトウ、ウミネコは草地に営巣するが、鳥の踏圧による植生破壊により土壌流失が起これ、営巣に適さなくなる。このためこれらの種の繁殖地の面積は拡大する傾向にある。

天売島、焼尻島は渡り鳥の中継地としても重要である。全国的に観察例が少ない種であるアカガ

シラサギ、コケワタガモ、ヤツガシラ、シマゴマ、シラガホオジロ、ツメナガホオジロ、コウライウグイスが記録されている。このうち、アカガシラサギ、ヤツガシラ、ツメナガホオジロは定期的に渡来している。寺沢（1983）はヤツガシラの渡来日を石川県舳倉島における同種の渡来日と比較して、日本海沿いに渡りコースを持つものと推定している。

両島ではまた、本州以南に分布し、北海道本島には生息しない種が渡来している。それらは、カワウ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、コサギ、ブッポウソウ、サンショウクイ、チゴモズ、である。ササゴイ、チュウサギ、コサギ、サンショウクイ、チゴモズは複数の記録があり、サンショウクイは巣立雛が観察されている。

稀少種以外ではカシラダカ、アトリ、ツグミ、キクイタダキ、メボソムシクイ、ベニヒワ等の大群が渡りの時期に見られており、渡り鳥の中継地としての重要性をうかがわせる。

(2) 陸域部

文献により92種、現地調査で58種、計104種が記録された。この中には暑寒別山塊での記録に加えて、ウ科、ガンカモ科、シギ科、カモメ科、ウミスズメ科等の海岸での記録種も含まれている。

現地調査を行った暑寒別岳東斜面について標高、植生別の鳥相を述べる。標高の低い林道沿いは疎な二次林で、アオジ、ホオジロが優占している。ここでは林縁、伐開地性の種、森林性の種を中心に出現種類数は比較的多い。登山道下部は自然林がよく保存されており、森林性の種を中心に最も種類数が多く、群集構成も多様度が高い。また傾斜地であるため、エゾムシクイ、オオルリ、コルリ等崖を利用して営巣する種が多いことも特徴的である。雨竜沼湿原にはノゴマ、ヒバリ、オオジシギといった草原性の種が見られるが、その種類数は少なく、密度も低い。上記3種は地表営巣性の種であるが、地表が湿潤なため、営巣適地が少ないのであろう。また植生高が低いため植物体に営巣する種も営巣していない。湿原内で記録された種の多くは周辺のササ原、樹林に営巣する種である。湿原内の池塘ではマガモが繁殖している。湿原から上はササ原の占める部分が多く、山頂部にハイマツ帯がある。ここでは高山性のカヤクグリ、ルリビタキが生息するのが特徴的である。他にはノゴマ、ウグイスが多い。河川（尾白利加川、暑寒別川）では、シマフクロウ、ヤマセミ、カワセミ、イソシギ、カワガラス、キセキレイといった河川性の種が記録されている。

以上、暑寒別岳で見られた鳥相は、道内の山地で一般的に見られるものである。

稀少な種としては、シマフクロウがベンケベタン川に生息するとされるが、今回の調査では確認できなかった。シマフクロウは天然記念物に指定されており個体数が非常に少なく、絶滅が心配されている種である。今後、その生息状況を調査し、採餌場所として河川を、営巣地として周囲の森林を保護する必要がある。シマフクロウと同じく天然記念物に指定されているクマガラ、イヌワシも記録されている。イヌワシは北海道においては極めて珍しい記録である。猛禽類では、また、クマタカが生息する。

海鳥類では赤岩岬、雄冬岬（増毛町）にウミウ、オオセグロカモメのコロニーがあり、保護の必要がある。

〈参考・引用文献〉

- 1) 阿部 学（1967），天売島で繁殖するウトウの生態と野犬（？）による被害について。鳥，18（83）：32～37。

- 2) 北海道立林業試験場（1978），天売島の自然環境調査報告書（1年次），治山調査報告書：35～45。
- 3) 北海道立林業試験場（1979），焼尻島の自然環境調査報告書，治山調査報告書，（2）：43～61。
- 4) 石川修三（1984），ベンケベタン川，北海道探鳥ガイド：76～77。
- 5) 入江義智（1974），続・天売島海鳥観察記，北海道野鳥だより，19・20：4～5。
- 6) 環境庁（1973），天売島，特定鳥類等調査：63～81。
- 7) 環境庁（1978），天売島，特定鳥類等調査：88～102。
- 8) 小山政弘・入江義智（1973），天売島海鳥観察記，北海道野鳥だより，16：7～8。
- 9) 黒田長久（1963），天売島海鳥調査（附陸鳥），山階鳥類研究所報告，3（5）：61～79。
- 10) 村田英二（1958），ウミスズメ天売島に繁殖す，鳥，14（70）：22～26。
- 11) 高橋明雄（1972），増毛の樹園地における冬の鳥，北海道野鳥だより，10：3。
- 12) 高橋明雄（1973），冬期に増毛地方でみられる鳥，北海道野鳥だより，16：9。
- 13) 高橋明雄（1974），増毛地方の自然，増毛町史：3～45。
- 14) 寺沢孝毅（1983），天売島の鳥，北海道野鳥だより，53：3～7。
- 15) 竹内修五郎（1971），天売島の植物・鳥類・蝶類，19pp。
- 16) Udagawa, T（1953），The Avifauna of Teuri and Yagishiri Islands, Hokkaido. Tori: 13（63）：68～85。
- 17) Watanuki, Y（1982），Size Selective Hunting by Slaty-backed Gulls *Larus schistisagus* and Influence on Fledging Success of Black-tailed Gulls *L. crassirostris*, J. Yamashina Inst. Ornith. 14：25～34。
- 18) 綿貫 豊（1983），海鳥における捕食と餌の略奪，個体群生態学会会報，37：67～76。
- 19) Watanuki, Y（1983），Predation and Anti-predation Behavior in Seabirds on Teuri Island, Hokkaido. J. Yamashina Inst. Ornith. 15：167～174。
- 20) 綿貫 豊（1984），北海道周辺におけるオオセグロカモメの繁殖期の食性，月刊海洋科学，16（4）：212～215。
- 21) 山階鳥類研究所（1978），鳥類標識調査報告書（昭和48年4月1日～昭和53年1月31日），251 pp。
- 22) 山階鳥類研究所（1979），昭和53年度鳥類観測ステーション報告，246 pp。
- 23) 山階鳥類研究所（1980），昭和54年度鳥類観測ステーション報告，272 pp。
- 24) 山階鳥類研究所（1981），昭和55年度鳥類観測ステーション運営，194 pp。
- 25) 山階鳥類研究所（1982），昭和56年度鳥類観測ステーション報告，225 pp。
- 26) 山階鳥類研究所（1983），昭和57年度鳥類観測ステーション報告，265 pp。

3 鳥類目録

(1) 島嶼部

	天	売	焼	尻		天	売	焼	尻
アビ目					22	コケワタガモ			○
アビ科					23	ビロードキンクロ			○
1 オオハム		○			24	シノリガモ			○
カイツブリ目					25	ウミアイサ			○
カイツブリ科					ワシタカ目				
2 アカエリカイツブリ		○			ワシタカ科				
ミズナギドリ目					26	トビ			○
ミズナギドリ科					27	オジロワシ			○
3 アカアシミズナギドリ		○			28	オオワシ			○
4 ハイイロミズナギドリ		○			29	オオタカ			○
ペリカン目					30	ツミ			○
ウ科					31	ケアシノスリ			○
5 カワウ		○			32	ノスリ			○
6 ウミウ		○	○		ハヤブサ科				
7 ヒメウ		○	○		33	シロハヤブサ			○
コウノトリ目					34	ハヤブサ			○
サギ科					35	チゴハヤブサ			○
8 ヨシゴイ		○			36	チョウゲンボウ			○
9 ササゴイ		○			キジ目				
10 アカガシラサギ		○			キジ科				
11 アマサギ			○		37	キジ			○
12 チュウサギ		○			ツル目				
13 コサギ		○	○		クイナ科				
14 アオサギ		○			38	バン			○
ガンカモ目					チドリ目				
ガンカモ科					シギ科				
15 オオハクチョウ		○			39	タカブシギ			○
16 オシドリ		○			40	キアシシギ			○
17 マガモ		○	○		41	イソシギ			○
18 カルガモ		○			42	チュウシャクシギ			○
19 コガモ		○			43	ヤマシギ			○
20 ヒドリガモ		○			44	タシギ			○
21 ハシビロガモ		○			45	オオジシギ			○

	天	売	焼	尻		天	売	焼	尻
ヒレアシシギ科					73	フクロウ			○
46 ハイイロヒレアシシギ		○			アマツバメ目				
47 アカエリヒレアシシギ		○			アマツバメ科				
カモメ科					74	ハリオアマツバメ			○
48 ユリカモメ		○			75	アマツバメ			○
49 セグロカモメ		○	○		ブッポウソウ目				
50 オオセグロカモメ		○	○		カワセミ科				
51 ワシカモメ		○			76	アカショウビン			○
52 シロカモメ		○			77	カワセミ			○
53 カモメ		○			ブッポウソウ科				
54 ウミネコ		○	○		78	ブッポウソウ			○
55 ミツユビカモメ		○			ヤツガシラ科				
ウミスズメ科					79	ヤツガシラ			○
56 ウミガラス		○	○		キツツキ目				
57 ハシブトウミガラス		○			キツツキ科				
58 ケイマフリ		○	○		80	アリスイ			○
59 マダラウミスズメ		○			81	アカゲラ			○
60 ウミスズメ		○	○		82	オオアカゲラ			○
61 エトロフウミスズメ		○			83	コゲラ			○
62 コウミスズメ		○			スズメ目				
63 ウトウ		○	○		ヒバリ科				
64 エトピリカ		○			84	ヒバリ			○
ハト目					ツバメ科				
ハト科					85	ツバメ			○
65 キジバト		○	○		86	コシアカツバメ			○
66 アオバト		○			87	イワツバメ			○
ホトトギス目					セキレイ科				
ホトトギス科					88	ツメナガセキレイ			○
67 カッコウ		○	○		89	キセキレイ			○
68 ツツドリ		○	○		90	ハクセキレイ			○
フクロウ目					91	ビンズイ			○
フクロウ科					92	ムネアカタヒバリ			○
69 シロフクロウ		○			93	タヒバリ			○
70 コミミズク		○			サンショウクイ科				
71 コノハズク		○	○		94	サンショウクイ			○
72 オオコノハズク		○			ヒヨドリ科				

	天	売	焼	尻		天	売	焼	尻
95 ヒヨドリ	○		○		125 エゾムシクイ	○			
モズ科					126 センダイムシクイ	○			
96 チゴモズ	○		○		127 キクイタダキ	○			
97 モズ	○				(ヒタキ亜科)				
98 アカモズ	○				128 キビタキ	○		○	
99 オオモズ	○				129 ムギマキ	○			
レンジャク科					130 オオルリ	○		○	
100 キレンジャク	○				131 エゾビタキ	○			
101 ヒレンジャク	○				132 コサメビタキ	○			
ミソサザイ科					エナガ科				
102 ミソサザイ	○		○		133 エナガ	○			
ヒタキ科					シジュウカラ科				
(ツグミ亜科)					134 ヒガラ	○		○	
103 コマドリ	○		○		135 ヤマガラ	○		○	
104 シマゴマ			○		136 シジュウカラ	○		○	
105 ノゴマ	○		○		メジロ科				
106 コルリ	○		○		137 メジロ	○		○	
107 ルリビタキ	○		○		ホオジロ科				
108 ジョウビタキ	○				138 シラガホオジロ	○			
109 ノビタキ	○				139 ホオジロ	○		○	
110 イソヒヨドリ	○				140 ホオアカ	○			
111 トラツグミ	○				141 カシラダカ	○			
112 クロツグミ	○		○		142 ミヤマホオジロ	○			
113 アカハラ	○				143 シマアオジ	○			
114 シロハラ	○				144 アオジ	○		○	
115 マミチャジナイ	○				145 クロジ	○			
116 ツグミ	○		○		146 オオジュリン	○			
(ウグイス亜科)					147 ツメナガホオジロ	○			
117 ヤブサメ	○				148 ユキホオジロ	○			
118 ウグイス	○		○		アトリ科				
119 エゾセンニュウ	○		○		149 アトリ	○			
120 シマセンニュウ	○				150 カワラヒワ	○		○	
121 マキノセンニュウ	○		○		151 マヒワ	○		○	
122 コヨシキリ	○		○		152 ベニヒワ	○			
123 オオヨシキリ	○		○		153 イスカ	○		○	
124 メボソムシクイ	○				154 ベニマシコ	○			

	天	売	焼	尻
155 ウソ	○		○	
156 イカル			○	
157 シメ	○			
ハタオリドリ科				
158 ニュウナイスズメ	○			
159 スズメ	○		○	
ムクドリ科				
160 コムクドリ	○		○	
161 ムクドリ	○		○	
コウライウグイス科				
162 コウライウグイス	○			
カラス科				
163 ハシボンガラス	○		○	
164 ハシブトガラス	○		○	
157種			64種	

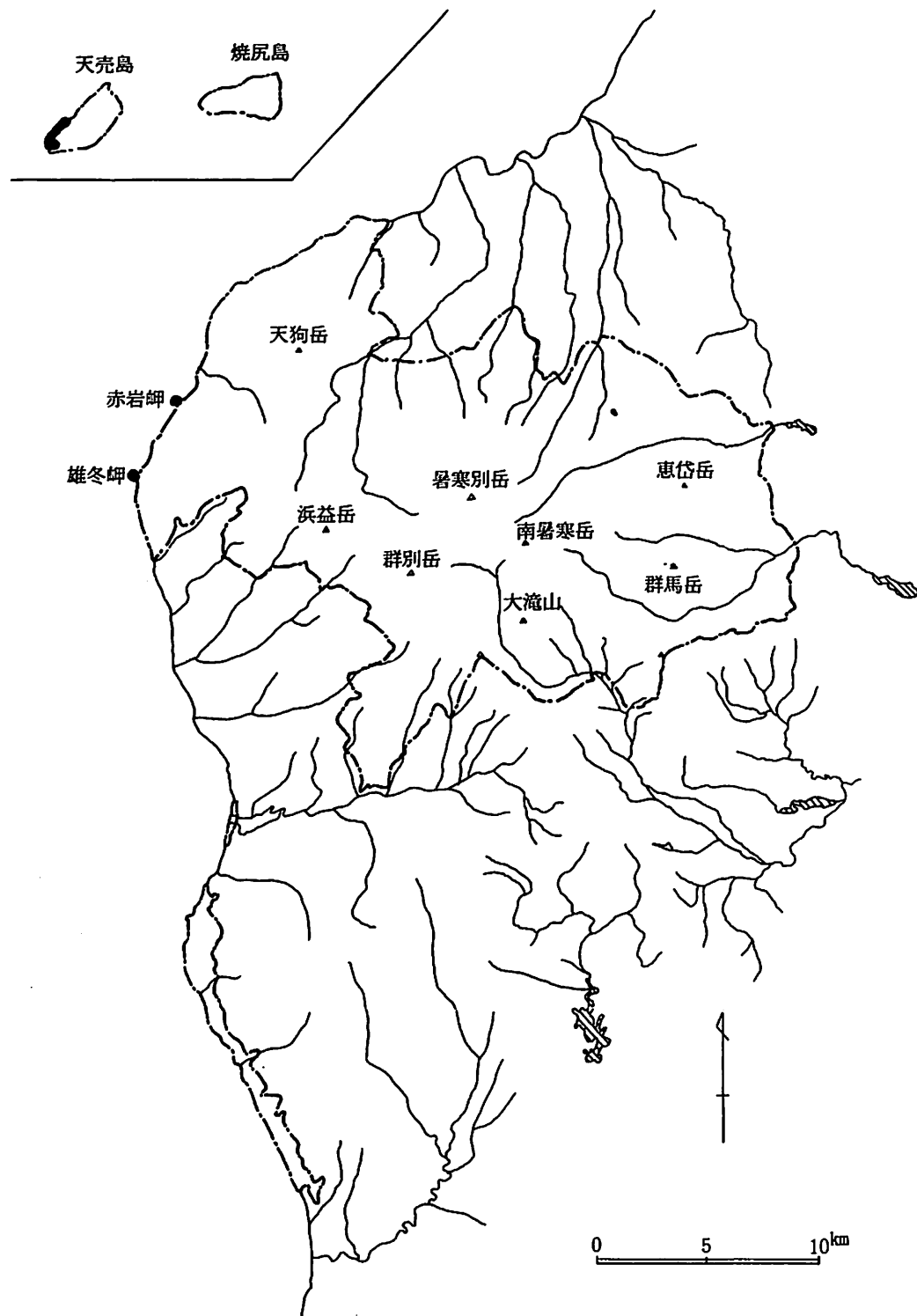
(2) 陸域部

	文献	現地調査		文献	現地調査
ペリカン目			13 クマタカ	○	
ウ科			14 イヌワシ	○	
1 ウミウ	○	○	キジ目		
2 ヒメウ	○		ライチョウ科		
ガンカモ目			15 エゾライチョウ	○	
ガンカモ科			チドリ目		
3 マガン	○		シギ科		
4 オオハクチョウ	○		16 イソシギ		○
5 マガモ	○	○	17 ヤマシギ		○
6 カルガモ	○		18 オオジシギ	○	○
7 ハシビロガモ	○		カモメ科		
8 シノリガモ	○		19 セグロカモメ	○	
9 カワアイサ	○		20 オオセグロカモメ		○
ワシタカ目			21 シロカモメ	○	
ワシタカ科			22 カモメ	○	
10 トビ	○	○	23 ウミネコ	○	
11 オオワシ	○		ウミスズメ科		
12 ノスリ		○	24 ケイマフリ	○	

文献		現地調査	文献		現地調査	文献		現地調査	文献		現地調査
25	ウトウ	○	44	イワツバメ	○	70	コヨシキリ	○	98	ニューナイスズメ	○
ハト目			セキレイ科			71	エゾムシクイ	○	99	スズメ	○
ハト科			45	キセキレイ	○	72	センダイムシクイ	○	ムクドリ科		
26	キジバト	○	46	ハクセキレイ	○	(ヒタキ亜科)			100	コムクドリ	○
ホトトギス目			47	セグロセキレイ	○	73	キビタキ	○	101	ムクドリ	○
ホトトギス科			48	ビンズイ	○	74	オオルリ	○	カラス科		
27	ジュウイチ	○	ヒヨドリ科			75	サメビタキ	○	102	カケス	○
28	カッコウ	○	49	ヒヨドリ	○	76	コサメビタキ	○	103	ハシボソガラス	○
29	ツツドリ	○	モズ科			エナガ科			104	ハシブトガラス	○
フクロウ目			50	モズ	○	77	エナガ	○	92種	58種	
フクロウ科			51	アカモズ	○	シジュウカラ科					
30	シマフクロウ	○	レンジャク科			78	ハシブトガラ	○			
31	フクロウ	○	52	キレンジャク	○	79	コガラ	○			
ヨタカ目			53	ヒレンジャク	○	80	ヒガラ	○			
ヨタカ科			カワガラス科			81	ヤマガラ	○			
32	ヨタカ	○	54	カワガラス	○	82	シジュウカラ	○			
アマツバメ目			ミソサザイ科			ゴジュウカラ科					
アマツバメ科			55	ミソサザイ	○	83	ゴジュウカラ	○			
33	ハリオアマツバメ	○	イワヒバリ科			メジロ科					
34	アマツバメ	○	56	カヤクグリ	○	84	メジロ	○			
ブッポウソウ目			ヒタキ科			ホオジロ科					
カワセミ科			(ツグミ亜科)			85	ホオジロ	○			
35	ヤマセミ	○	57	コマドリ	○	86	ホオアカ	○			
36	アカショウビン	○	58	ノゴマ	○	87	カシラダカ	○			
37	カワセミ	○	59	コルリ	○	88	ノジコ	○			
キツツキ目			60	ルリビタキ	○	89	アオジ	○			
キツツキ科			61	ノビタキ	○	90	クロジ	○			
38	クマゲラ	○	62	イソヒヨドリ	○	アトリ科					
39	ヤマゲラ	○	63	トラツグミ	○	91	カワラヒワ	○			
40	アカゲラ	○	64	クロツグミ	○	92	マヒワ	○			
41	オオアカゲラ	○	65	アカハラ	○	93	ベニヒワ	○			
42	コゲラ	○	66	ツグミ	○	94	ベニマシコ	○			
スズメ目			(ウグイス亜科)			95	ウソ	○			
ヒバリ科			67	ヤブサメ	○	96	イカル	○			
43	ヒバリ	○	68	ウグイス	○	97	シメ	○			
ツバメ科			69	エゾセンニュウ	○	ハタオリドリ科					

図-2 海鳥集団繁殖地位置

●……海鳥集団繁殖地位置



第III章 昆虫類

久万田 敏 夫

全動物の種類の8割ちかくは昆虫であると言われている。しかも、現段階で種類の同定が可能な成虫が出現する期間は短かく、捕獲される機会は限られている。従って、例え小地域であっても、この膨大な種類の昆虫相を短期間の調査で明らかにすることは不可能にちかい。

このような理由から、本調査によって判明出来た昆虫類は、この地域に生息する全昆虫の1割にも達しないと思われる。この結果に基づく本報告もまた、不完全のそしりはまぬがれがたいが、これは一地方の昆虫類に関する印象記と考えていただければ幸である。

本文に入るに先立ち、現地調査に協力いただいた北海道大学農学部昆虫学教室諏訪正明博士、伊東拓也氏、岩崎暁生氏、北大昆虫研究会の北村覚氏と宮川盛一郎氏、並びに同定に協力下された次の方々から御礼申し上げる。

ハナバエ科：諏訪正明博士、ハナアブ科：大原賢二氏（九州大学農学部）、カワゲラ類：内田臣一氏（東京都立大学理学部）、ヤガ科：伊東拓也氏。

第1節 研究小史

1 暑寒別岳とその周辺地域

「北海道の尾瀬」とも言われる雨竜沼を中腹に持つ暑寒別山塊は、昆虫学上興味ある地域と考えられるが、組織だった調査は殆ど行われておらず、昆虫類全般にわたる調査報告も全くない。その理由の一つは、比較的近年まで登山道路の整備が行われていなかったためと思われる。昭和29年頃、当時北大昆虫学教室の助教授であった渡辺千尚博士が学生であった小西正泰博士と共に、岩見沢林務署の職員の案内で雨竜沼に昆虫採集を試みたが、その頃国領から先は全く道路がない状態であったとのことである。この時の採集結果に関しては報告されていない。

道路が整備され始めた昭和30年代以後からは、愛好者が個人的に暑寒別への登山のかたわら、昆虫採集をも行ったようである。そして断片的ながら、主として蝶類に関する報告が行われて来た。赤坂紀典（1956, *Coenonympha* 3:46）は初めて暑寒別岳の標高300m~700mにベニヒカゲが生息することを報告し、竹内修五郎（1959, *Coenonympha* 9:12~13）はこの報告を確認すると共に、この蝶が特に雨竜沼に多産することを報告した。次いで沼田高校生物クラブによる雨竜沼の調査が行われ、その報告書（1963, 雨竜沼調査報告書:16）には、雨竜沼及び登山路にて採集された35種の蝶類が報告されている。いずれも北海道の低地から山地に普通の種類である。

一方この山塊の南麓に位置する浜益村実田からは、千田一郎（1959, *Coenonympha* 9:158）によってオオムラサキの分布が報告された。札幌市周辺が、この蝶の分布の北限と考えられていたので、この報告は同好者の注目を集め、調査がこの地に集中することになった。1980年には本田知秋、

渡辺洋三 (Jezoensis 7:95-98) によって同地からゴマダラチョウの生息が報告され、1983年には川田光政 (Jezoensis 10:1-7) によって浜益村千代志別、床丹、幌、実田からウスバシロチョウが、送毛、床丹、千代志別からはヒメギフチョウが、また送毛からはオオイチモンジが記録された。更に同氏は、床丹からジョウゼンシジミの生息を報告した (1984, Jezoensis 11:67)。

いずれにしても、これらの報告は愛好者が主として興味を持つ蝶類に限られ、しかも断片的であり、他の昆虫類については殆ど知られていない。暑寒別山塊は、今でも道内の中で最も昆虫調査が遅れている地域である。

2 焼尻島・天売島

日本海に浮かぶ島嶼の中でも、焼尻島と天売島は、利尻島や礼文島などより小さく地形の変化もないためか、これまで殆ど昆虫調査の対象とはなっていなかった。従って、利尻、礼文両島に比べると、昆虫調査に関する報告は極めて少ない。日本産の特定の昆虫群をまとめた中で、断片的に焼尻・天売両島産の資料が含まれているのが散見されるが、総合的な報告は出版されていない。

蝶類に関する報告は竹内修五郎 (1961, Coenonympha 11:197-198) によって始めて行われ、焼尻島から20種、天売島から14種が記録された。矢崎康幸 (1984, Jezoensis 11:59-60) は更に天売島からヒメアカタテハ1種を追加記録した。この他に、旭川西高生物クラブによる2篇の報告があると言われるが、残念ながら筆者は見ることが出来なかった。

両島の蛾類に関しては、館山一郎 (1974, Coenonympha 29:557-559)、並びに館山一郎・楠井義久 (1975, Coenonympha 32:624-625) の報告があり、いずれもヤガ科のキンウワバ亜科を取り扱ったものである。これらの報告によれば、焼尻島からはエゾムラサキウワバ、オオキクギンウワバ、オオヒサゴキンウワバ、ムラサキキンウワバ、ミツモンキンウワバの5種が、また天売島からはエゾムラサキウワバ、オオヒサゴキンウワバ、ムラサキウワバの3種が記録されている。

これら両島から報告された昆虫類に関するかぎりでは、利尻・礼文島に比して極端に種類数が少なく、昆虫研究者の魅力を欠く要因となっている。このことがこれらの島嶼での調査を遅らせて来た原因と思われる。

第2節 調査地点及び調査方法

先にも述べたように、昆虫類は成虫の出現期が決まっており、しかも短期間であるため、本調査では出来るだけ多くの種類を採集する目的で調査時期を3回に分けて行った。

第1回目。5月23日~24日。主としてヒメギフチョウなど早春に出現する昆虫を対象として、浜益村尻内、実田、千代志別、増毛町山ノ神、並びに雨竜町ペンケペタン川流域を調査地点に選定した。調査時には標高500m以上はまだ残雪が多く、山麓の調査を行っただけである。

第2回目。7月18日~21日。雨竜沼を主として暑寒別山塊の山岳地域の調査を行った。18日車にて札幌発、南暑寒荘着、直ちに登山を開始して雨竜沼の西端にて幕営。19日は調査員を2班に分けて、1班は雨竜沼にて調査、他の1班は南暑寒岳を經由して暑寒別岳へ登山し、山岳高地の調査に

従事した。その夜は前夜と同地点で幕営、翌日は午前中雨竜沼並びに南暑寒岳までの登山路にて調査を行い、午後南暑寒荘まで下山して宿泊。21日には南暑寒荘付近のペンケペタン川流域を調査した後、帰札した。

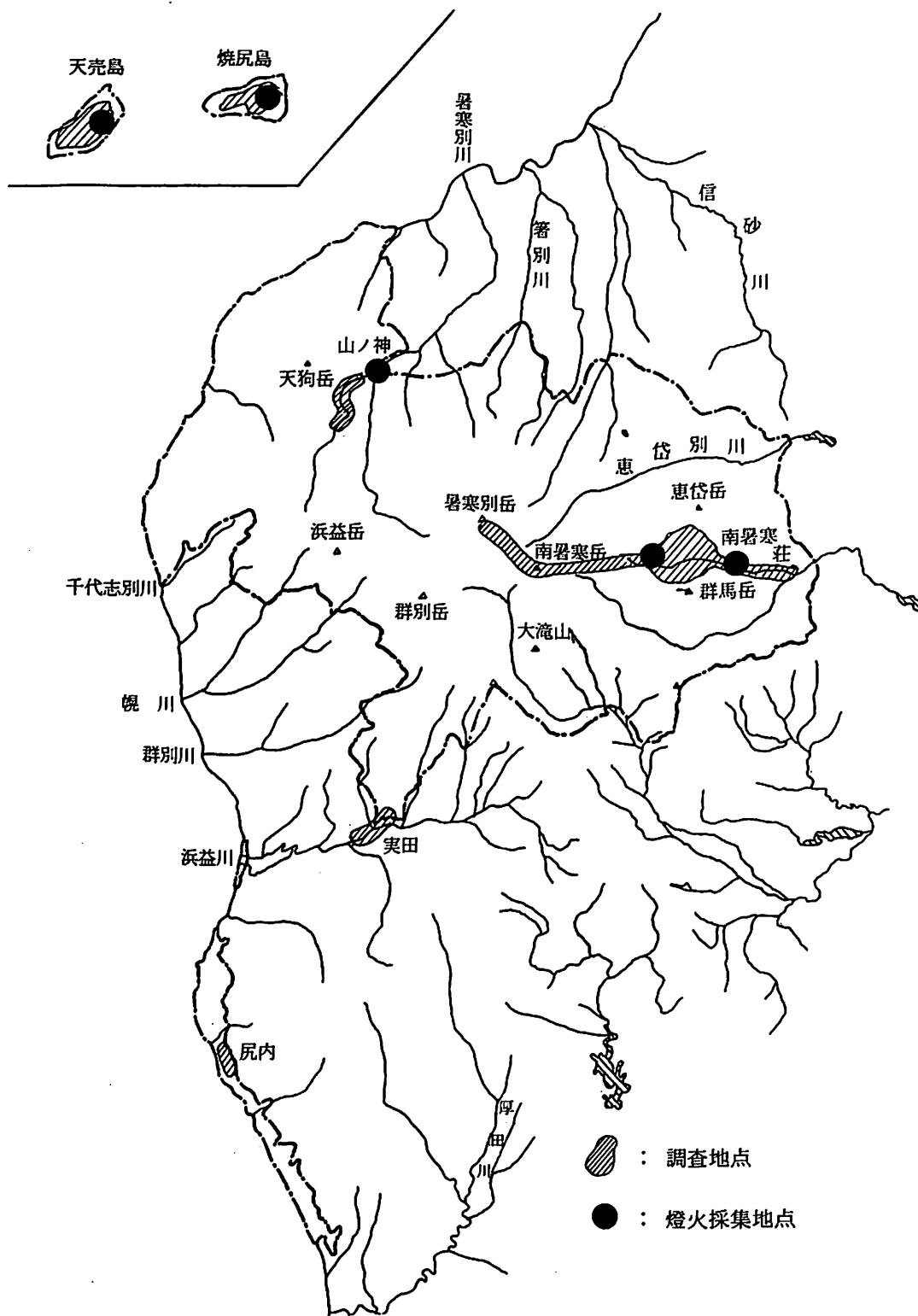
第3回目。8月3日~5日。南暑寒荘並びに雨竜沼周辺の調査。前回とほぼ同じ経路をたどったが、雨竜沼より高地の調査は実施しなかった。

この調査の帰路、8月5日~6日は焼尻島にて、また6日~8日は天売島にて調査を行った。焼尻・天売両島では、ほぼ全域にわたって調査の足を延ばしたが、海岸域は対象としなかった。

いずれの調査においても、捕虫網を用いた見つけ捕りを主体とし、時にはたたき網法 (beating)、乱獲法 (sweeping) を行い、日中活動する昆虫を出来るだけ多く採集しよう心がけた。夜はホンダの発電機を用いて、20W ブックライト 1本と100W 白熱電灯 1ヶを光源として燈火採集を行った。燈火採集を行った地点は図-1に示したが、日時と地点は次の通りである。5月23日: 増毛町山ノ神、林道上にて18時から23時まで。7月18・19日: 雨竜沼西端の登山路上にて18時から24時まで。7月20日: 南暑寒荘前にて19時から24時まで。8月3・4日: 南暑寒荘前にて19時から23時まで。8月3日にはブタンガスを用いて雨竜沼西端でも燈火採集を行ったが、気温が低下したこともあって昆虫の飛来は殆どなかった。8月5日: 焼尻島イチイ林の中心部にて19時から23時まで。8月6日: 天売島の天売神社前にて19時から24時まで。

なお、歩行虫を対象として用いられる落とし孔法は、1ヶ所での滞在期間が短いため、今回は全く使用しなかった。

図-1 昆虫類調査地点



第3節 調査結果及び考察

1 暑寒別山塊

膜翅目(蜂類)及び双翅目(ハエ類)を除いて、今回の調査によって採集され、現在までに一応の同定作業が終了した昆虫類は「昆虫目録」に記した通りであるが、蜻蛉目(トンボ類)9種、直翅目(バッタ類)4種、半翅目(カメムシ類)8種、襖翅目(カワゲラ類)4種、蜉蝣目(カゲロウ類)1種、広翅目(センブリ類)3種、脈翅目(ウスバカゲロウ類)6種、長翅目(シリアゲムシ類)1種、毛翅目(トビケラ類)6種、鱗翅目のうち蝶類30種、蛾類298種、鞘翅目(甲虫類)46種であった。すでにこの地域から記録があって今回確認出来なかった蝶類と甲虫類を加えると、総計447種であった。これらの大部分は北海道内に広くごく普通に生息する種類である。

いまこの地域の昆虫相を考察するに当たって、植生が大きく異なる雨竜沼湿原を中心に、標高850メートル以下の低山帯、850メートルに位置する湿原帯、850メートル以上の高山帯に分けるのが便利であると思われる。

(1) 低山帯

一部に植林地帯が入るが、針広混交林が比較的によく保存された地域であって、昆虫相も変化に富んでいる。今回採集された昆虫類の80パーセント近くはこの地域から得られた。しかし得られた種類の大部分は道内に広く分布する昆虫であり、特に暑寒別山塊を他の山塊から区別して特徴づけるものは見当たらない。

道内の分布調査が進んでいる蝶類についても大部分の種類は上記の条件のものであるが、研究史の項でふれたように、一部の種類にとってはこの山塊が北限となっていることが判明している。

国蝶として知られるオオムラサキは、幼虫期にエゾエノキやエノキを食し、道内では札幌市周辺部、小樽市や余市町付近並びに夕張市周辺などごく限られた地域から知られているが、この山塊の南麓に位置する浜益村実田からも記録されている。今回の調査でも、実田神社境内に数本生えているエゾエノキで幼虫が確認された。また最近になって、この同じエゾエノキにゴマダラチョウが発生することが報告されたが、このチョウにとっても、この地域が分布の北限である。残念ながら、実田地域は暑寒別自然公園区域外であり、愛好者の乱獲などで絶滅の恐れがある。公園域に含めるなどの対策が必要であろう。

早春の雪融けと共に出現するヒメギフチョウは、石狩低地帯の北東部に広く分布していることが最近の調査で明らかにされつつあるが、暑寒別山塊の山麓にも広く分布することが、今回の調査で明らかになった。浜益村の尻内、実田、及び増毛町山の神地域で成虫を確認し(図-2)、また南暑寒荘と雨竜沼の中間点で幼虫が採集された。この蝶にとってはこの山塊が日本海側での南限であると思われる。ヒメギフチョウの幼虫は、北海道ではオクエゾサイシンだけを食し、この植物が広範囲に大量に生えている所で発見されている。従って安易な森林の伐採はオクエゾサイシンの生育を危くし、ひいてはヒメギフチョウの生息にも影響を及ぼすことになる。森林開発に当たっては十分な注意が必要であろう。

(2) 雨竜沼湿原

大小多数の池塘が散在して高層湿原を形成する雨竜沼湿原は、標高850メートルに位置する立地条件やその広大な規模から、常に本州の尾瀬ヶ原と対比されている。尾瀬ヶ原の昆虫類調査は長年にわたって継続され、多くの報告があるが、それでもまだ完結していない。今回の短期間の調査結果と、尾瀬ヶ原のそれとを比較することはもともと無理ではあるが、考察を進めるに当たって比較検討していきたい。

今回の調査で得られた雨竜沼湿原産の昆虫は、トンボ類9種、カメムシ類2種、カワゲラ類2種、カゲロウ類1種、センブリ類2種、ウスバカゲロウ類2種、シリアゲムシ類1種、トビケラ類4種、蝶類9種、蛾類115種、甲虫類13種であった。このうち蝶類、蛾類及び甲虫類の大部分は、周辺地域からの侵入種と考えられ、特に大きな割合を占める蛾類の大部分は、燈火採集の結果得られた種類であるため、周辺から飛来して来たものと考えられる。こうした飛来ないしは一時的に侵入したと考えられる種類を除けば、まだ種類が決定されていない小型の昆虫があるものの、真の湿原生息昆虫はわずかである(図-3)。

トンボ類、トンボ類は尾瀬ヶ原でも最も良く調査され、現在44種が記録されている(Asahina, 1982, Ozegahara: 321-33)。一方、雨竜沼からは今回9種が採集されたが、今後いろいろな時期に調査を進めれば種類が増加するであろう。トンボ類は概して南に種類が多い昆虫群であるため、このような大きな差に成ったと思われるが、周辺地域の環境の変化のとぼしさも一原因であろう。9種のうち、エゾルリイトトンボとコエゾトンボは尾瀬ヶ原に生息していないが、他の種類は尾瀬ヶ原からも記録されている。前の2種は我国では北海道特産種であり、特にエゾルリイトトンボの代替種として尾瀬ヶ原にはオゼイトトンボが生息している。この種類は従来道東部にのみ分布すると考えられていたが、雨竜沼産の標本にはすべて腹部第2節上面にウィングラス状の特有の黒紋を有するので、エゾルリイトトンボであることは間違いない。

9種のうち、湿原の池塘ないし流域で発生すると考えられるのは、アオイトトンボ、キタイトトンボ、エゾルリイトトンボ、オオルリボシヤンマ、カラカネトンボ、カオジロトンボの6種であり他は一時的な飛来種と思われる。特にアキアカネとノシメトンボは、夏季に高地へ移動して秋に平地へもどる習性のあることが判明しており、暑寒別山塊においても、低山帯から高山帯に至るまで多数の群飛が観察された。湿原に特有の6種のうち最も個体数の多いのはカオジロトンボであり、次いでキタイトトンボ、エゾルリイトトンボ、カラカネトンボの順であった。アオイトトンボとオオルリボシヤンマは、前の4種が少なくなった8月に出現していた。これらの幼虫が、散在する池塘の中でどのような生活型を示すかは、今後の興味ある問題である。

尾瀬ヶ原に比して生息するトンボ類の種類が非常に少ないが、エゾルリイトトンボが分布することは特筆すべきであろう。池塘の中には乾きつつあるものもあり、散策路をこれ以上作らず、現在ある散策路すべてを木道にする必要がある。

その他の昆虫類、池塘と直接関係する水性昆虫では、ヒメアメンボ、カワゲラ類2種、ヒメアミメトビケラ、アミメトビケラの1種(*Oligotricha hybridoides*)、トビモンエグリトビケラ、エグリトビケラ、センブリ類2種、ミズスマシが採集された。このうちセンブリ類の1種はまだ種名が確定されていないが、非常に珍しい種類と思われる。アミメトビケラの1種の成虫は日中湿原を飛

翔し、この湿原を代表するトビケラである。他の種類は平地の湿原内池塘や沼にも普通である。

湿原に生育する植物と関連する種類は、スゲハムシ類3種、ギンモンミズメイガ、マダラトリバガ、ダイセツツガ、ヒメギンスジツガ、クロスジツガ、イグサヒメハマキ、ミヤマヤナギヒメハマキ、ポブラシロハモグリなどがある。スゲハムシ類はすべてスゲ類の花穂を食していたが、幼虫は根際に生息する。ギンモンミズメイガはヒルムシロを食べることが知られ、雨竜湿原でも類似の植物を餌としていると思われる。マダラトリバガはモウセンゴケだけを食べる特異な蛾で、湿原内でもモウセンゴケの群落のあるところだけで採集された。ダイセツツガ、ヒメギンスジツガ、クロスジツガなどのツツガ類は湿原内のミズゴケ類か禾本科植物に依存していると考えられ、イグサヒメハマキはイグサ類を食べる湿原特有の昆虫である。ミヤマヤナギヒメハマキは湿原内のヤナギの1種を食していると思われるが、大雪山の高地のヤナギにも生息する。ポブラシロハモグリも同じ種類のヤナギの葉に幼虫が多数潜入していたが、本種は平地のポプラなどにも寄生する。

蝶類、雨竜沼湿原に生息するチョウ類は、道内に広く分布する種類である。しかも大部分の種類は周辺部からの侵入種と考えられる。この中で、ベニヒカゲはこの湿原を住み家とする種類と考えられ、8月の調査の際には多数の成虫の飛翔が見られた。採集された成虫のうち、いくつかの個体は前翅斑紋に独特の形を表し、一般に雨竜沼タイプとして知られているものであった。このタイプは前翅外縁近くにある赤色斑が後方に向かって細くなり、中にある眼状紋が消失する傾向があることにより特徴づけられ、他の地域からは殆ど知られていない。湿原の環境は周辺から見れば離れ島のような状態にあり、この中で発生をくり返す中で生じて来た一つの変異なのであろう(図-4)。

以上述べて来た昆虫類は、すべて湿原という環境が存在してはじめて生存可能な種類である。暑寒別山塊に雨竜沼湿原を抱くことは、この山塊の環境を複雑にし、また昆虫相の多様化にもつながっている。

(3) 高山帯

ここでいう高山帯は、この山塊の標高850メートル以上の地域を意味し、いわゆる高山植物帯ではない。暑寒別山塊でのこの地域は、ササとダケカンバに代表され、南暑寒岳と暑寒別岳山頂付近でわずかにハイマツが出現し、また高山植物群落が存在する。この地域からは、植物相の貧弱さに対応して、昆虫相も極めて単純であり、大雪山塊や日高山塊に見られるような真の高山性昆虫は発見されなかった。ハイマツを食べる3種のヒラタハバチ類とハマキガ類が採集されたが、まだ種名の決定にいたっていない。その他の昆虫は他の山塊の低山帯からも発見される種類で、ここに特筆すべきものは今回の調査では採集されなかった。

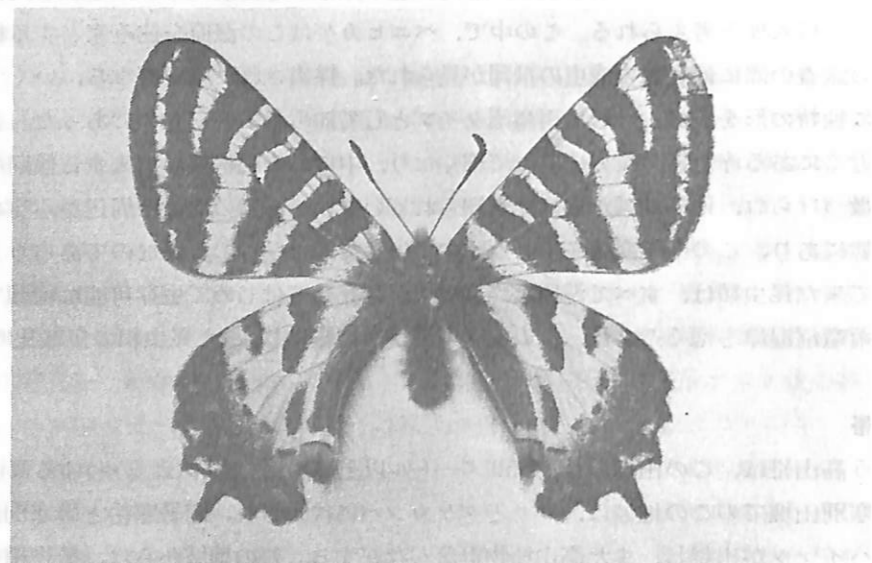
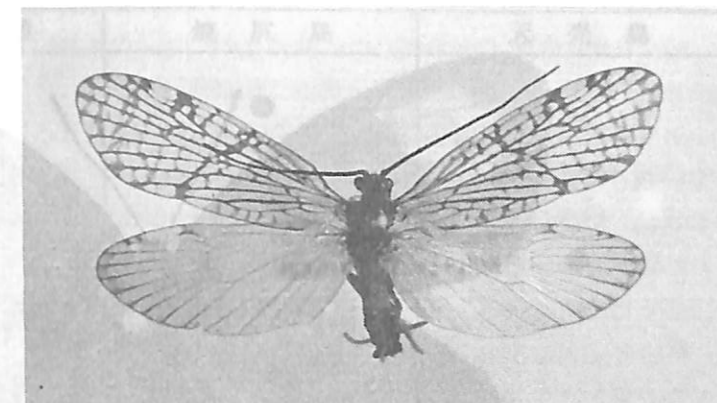


図-2 増毛町山の神産ヒメギフチョウ



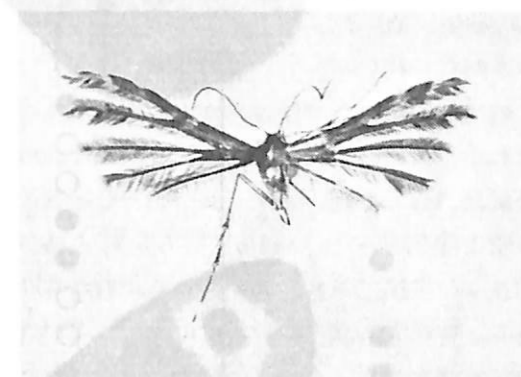
Salda sp. (オゼミズギワカメムシ?)



アミメトビケラの1種 (*Oligotricha hybridoides*)



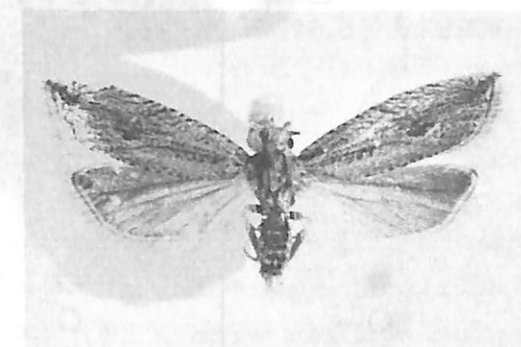
ギンモンミズメイガ



マダラトリバ



ヒメギンスジツトガ



イグサヒメハマキ

図-3 雨竜沼産湿原生昆虫

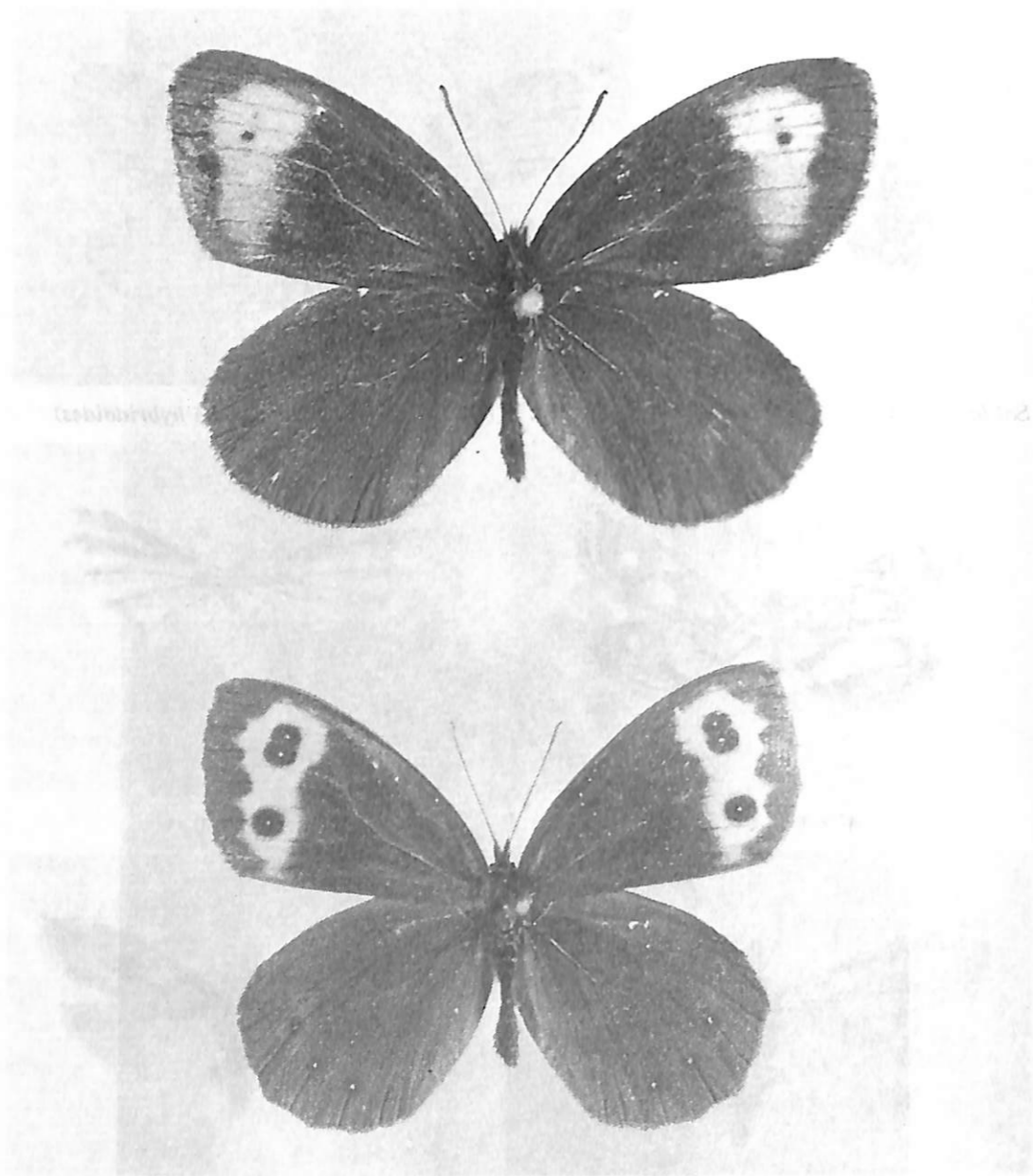


図-4 雨竜沼タイプ(上)と普通タイプ(下)のベニヒカゲ

表-1 焼尻・天売両島の蝶類相の比較

蝶の種類	焼尻島	天売島
アゲハチョウ科		
キアゲハ	●	○
カラスアゲハ	○	
ミヤマカラスアゲハ	○	
シロチョウ科		
モンキチョウ	●	●
モンシロチョウ	●	○
エゾスジグロシロチョウ	○	
スジグロシロチョウ	○	
シジミチョウ科		
アカシジミ	○	
ウスイロオナガシジミ	●	
ミドリシジミ	○	
ジョウザンミドリシジミ	●	
オオミドリシジミ	○	
エゾミドリシジミ	○	
アイノミドリシジミ	●	
ベニシジミ	●	●
ツバメシジミ	○	
ゴマシジミ	○	●
ルリシジミ	●	●
ヒメシジミ	○	○
タテハチョウ科		
ウラギンスジヒョウモン	○	
ミドリヒョウモン	○	
ヒメアカタテハ	○	
アカタテハ	●	○
クジャクチョウ		○
ジャノメチョウ科		
ジャノメチョウ	○	●
クロヒカゲ	○	○
ヤマキマダラヒカゲ (キマダラヒカゲ)	○	○
セセリチョウ科		
コチャバネセセリ	○	○
コキマダラセセリ	●	●
種類数	28	14

●は今回の調査で確認された種類
○は従来記録のある種類

2 焼尻島・天売島

一般に島嶼の動物の種類は島の面積に比例して、また陸塊からの距離に反比例して少なくなると言われている。今回得られた昆虫類は、調査期間が短いということもあると思われるが、目録に示したように非常に貧弱な種類数であった。焼尻島ではトンボ類が4種、カメムシ類1種、蝶類10種、蛾類67種、甲虫類19種が採集され、天売島からはトンボ類2種、バッタ類4種、カメムシ類6種、蝶類6種、蛾類61種、甲虫類12種が採集された。この他に、まだ種名が確定できない小型のもの、さらに本調査結果では全くふれなかった蜂類とハエ類が採集されているが、いずれも種類数はそれほど多くはない。

これらの昆虫はすべて北海道の平野部に広く生息する種類で、両島に特有の昆虫は、発見されていない。特に天売島で採集された昆虫類は、ヨモギ類を食するヨモギネムシガやヨモギオオホソハマキ、ツメクサ類を好食するウリハムシモドキなど、二次植生ないし草原生の環境に生息する種類が多い傾向にあった。これらの島のやや林が残っている地域での調査が不足していることと関連しているかもしれない。

焼尻・天売両島で比較的良好に調査が行きわたっているのは蝶類である。今回の調査結果を含めて、これまでに記録されている種類を両島で比較した結果を表-1に示した。この表からわかるように、焼尻島からは28種、天売島からはその半数の14種が記録されている。しかも天売島に生息する種類は殆ど焼尻島にも分布している。天売島の蝶類は、他の昆虫と同様に殆どが草地ないし草原と関連した種類であり、天売島から記録がなく焼尻島から知られる種類の大部分は樹木を食べる蝶である。特に天売島と焼尻島との大きな違いは、シジミチョウ科のミドリシジミ類が焼尻島から6種類が記録されているのに対して、天売島からは全く知られていないことである。この蝶類の大部分は、幼虫期にミズナラやカシワなどのコナラ属を摂食することが知られており、焼尻島にはイチイの保護とともに残されてきたミズナラ・カシワ林が存在し、ここがミドリシジミ類の生息地となっていた。

天売島の調査に際して、ゴマシジミが多数生息していたことは強烈な印象であった。この蝶は焼尻島からも記録されているが、今回同じ時期に同様な環境を調査したにもかかわらず、1個体も採集されていない。幼虫期にシロワレモコウを食することが知られており、天売島では古い畑地が放置された草原に生育していたシロワレモコウ付近を群れ飛んでいた。本種は北海道でも草原地帯に限って生息していたが、草地の田畑化に伴って個体数が減少しており、今では石狩地域では殆んど見られず、道東地域に生息地が限定されつつある。

焼尻島と天売島での蝶類相の違いは、両島のわずかな植生の違いによることは明らかであり、このことは、このような小さい島でも、環境の多様性が多くの昆虫類の多様化にいかにか大きく影響するかを示す好例ではないかと思われる。

3 昆虫目録

以下に今回採集され、しかも同定出来た昆虫類の一覧目録を示した。この他に膜翅目 (Hymenoptera) と双翅目 (Diptera) が採集されており、一部は各研究者によって同定されているが、この目録や考

察からは除外した。目録の中で蝶類及び一部の甲虫類については、従来記録のある種類および他の機会に採集されて標本を見ることが出来た種類をも含めたが、それには※印を付した。

陸域部の中で、低山帯・雨竜沼・高山帯と示したのは、本文中の区別と対応しており、5月、7月、8月と記したのは調査の日時と対応している。島嶼部では単に採集された島名だけを記したが、夫々1回だけの調査によるためであり、調査日時は「調査地点および調査方法」に示した。

(1) 陸域部 (暑寒別山塊)

I 蜻蛉目 (ODONATA)

アオイトトンボ科 (Lestidae)

- 1 アオイトトンボ (*Lestis sponsa*) 雨竜沼 (8月)

イトトンボ科 (Agrionidae)

- 2 キタイトトンボ (*Agrion ecornutum*) 雨竜沼 (7・8月)
3 エゾルイトトンボ (*Enallagma boreale yezoensis*) 雨竜沼 (7月)

ヤンマ科 (Aeschnidae)

- 4 オオルリボシヤンマ (*Aeschna nigroflava*) 雨竜沼 (8月)

エゾトンボ科 (Corduliidae)

- 5 カラカネトンボ (*Cordulia aenea amurensis*) 雨竜沼 (7月)
6 コエゾトンボ (*Somatochlora japonica*) 雨竜沼 (8月), 低山帯 (8月)

トンボ科 (Libellulidae)

- 7 アキアカネ (*Sympetrum frequens*) 全域 (7・8月)
8 ノシメトンボ (*Sympetrum infuscatum*) 全域 (7・8月)
9 カオジロトンボ (*Leucorrhinia dubia orientalis*) 雨竜沼 (7・8月)

II 直翅目 (ORTHOPTERA)

バッタ科 (Locustidae)

- 10 ハネナガフキバッタ (*Eirenephilus longipennis*) 低山帯 (8月)
11 ミヤマフキバッタ (*Parapodisma mikado*) 低山帯 (7月)
12 フキバッタ (*Parapodisma sapporensis*) 低山帯 (7月)

キリギリス科 (Tettigoniidae)

- 13 コバネヒメギス (*Chizuella bonneti*) 雨竜沼 (7月)

III 半翅目 (HEMIPTERA)

カメムシ科 (Pentatomidae)

- 14 アシアカカメムシ (*Pentatoma rufipes*) 低山帯 (7月)
15 ツノアオカメムシ (*Pentatoma japonica*) 低山帯 (7月)

ツノカメムシ科 (Acanthosomatidae)

- 16 ベニモンカメムシ (*Elasmotethus humeralis*) 低山帯 (8月)
17 ヒメツノカメムシ (*Elasmucha putoni*) 低山帯 (7月)

ミズギワカメムシ科 (Saldidae)

- 18 *Salda* sp. (? オゼミズギワカメムシ *S. morio*) 雨竜沼 (7月)

アメンボ科 (Gerridae)

- 19 ヒメアメンボ (*Gerris lacustris latiabdominis*) 雨竜沼 (7月)

セミ科 (Cicadidae)

- 20 エゾゼミ (*Tibicen japonicus*) 低山帯 (8月)
21 コエゾゼミ (*Tibicen bihamatus*) 全域 (7・8月)

IV 楨翅目 (PLECOPTERA)

カワゲラ科 (Perlidae)

- 22 ミツモンカワゲラ (*Calineura jezoensis*) 低山帯 (8月)
23 オオメフタツメカワゲラ (*Gibosia thoracica*) 低山帯 (8月)

オナシカワゲラ科 (Nemouridae)

- 24 ユビオナシカワゲラ属の1種 (*Protoneura* sp.) 雨竜沼 (7月)
25 オナシカワゲラ属の1種 (*Nemoura* sp.) 雨竜沼 (7月)

V 蜉蝣目 (EPHEMEROPTERA)

- 26 ナミトビイロカゲロウ (*Paraleptophlebia chocorata*) ? 雨竜沼 (7月)

VI 広翅目 (MEGALOPTERA)

センブリ科 (Sialidae)

- 27 センブリ (*Sialis sibirica*) 雨竜沼 (7月)
28 センブリ属の1種 (*Sialis* sp.) 雨竜沼 (7月)

ヘビトンボ科 (Corydalidae)

- 29 ヘビトンボ (*Protohermes grandis*) 低山帯 (7月)

VII 脈翅目 (NEUROPTERA)

ヒロバカゲロウ科 (Osmyliidae)

- 30 ウンモンヒロバカゲロウ (*Osmylus tessellatus*) 低山帯 (7月)
31 ヒロバカゲロウ (*Lysmus harmandi*) 雨竜沼 (7月)

クサカゲロウ科 (Chrysopidae)

- 32 ホシクサカゲロウ (*Chrysopa vittata*) 低山帯 (7月), 雨竜沼 (7月)

ヒメカゲロウ科 (Hemerobiidae)

- 33 シロタエヒメカゲロウ (*Paramicromus dissimilis*) 低山帯 (7月), 雨竜沼 (7月)

ウスバカゲロウ科 (Myrmeleonidae)

- 34 コウスバカゲロウ (*Myrmeleon formicarius*) 低山帯 (8月)
35 ホシウスバカゲロウ (*Glenuroides japonicus*) 低山帯 (8月)

VIII 長翅目 (MECOPTERA)

シリアゲムシ科 (Panorpidae)

- 36 プライアシアゲ (*Panorpa pryeri*) 全域 (7月)

IX 毛翅目 (TRICHOPTERA)

ヒゲナガカワトビケラ科 (Stenopsychidae)

- 37 ヒゲナガカワトビケラ (*Stenopsyche griseipennis*) 低山帯 (7・8月)

トビケラ科 (Phryganeidae)

- 38 アミメトビケラの1種 (*Oligotricha hybridoides*) 雨竜沼 (7月)
39 ヒメアミメトビケラ (*Hagenella apicalis*) 雨竜沼 (7月)
40 ムラサキトビケラ (*Neuronia regina*) 低山帯 (8月)

エグリトビケラ科 (Limnophilidae)

41 エグリトビケラ (*Glyphotaelius admorsus*) 雨竜沼 (7月)

42 トビモンエグリトビケラ (*Actenophylax grammicus*) 雨竜沼 (7月)

X 鱗翅目 (LEPIDOPTERA)

〔蝶類〕

アゲハチョウ科 (Papilionidae)

43 ヒメギフチョウ (*Luehdorfia puziloi*) 低山帯 (南暑寒荘付近・7月幼虫採集; 浜益村
尻内・実田及び増毛町山の神奥にて5月成虫採集)

44 ヒメウスバシロチョウ (*Parnassius hoenei*) 低山帯 (南暑寒荘7月)

45* ウスバシロチョウ (*Parnassius glacialis*) 低山帯 (浜益村実田・6月)

46 キアゲハ (*Papilio machaon*) 全域 (7・8月)

47* カラスアゲハ (*Papilio bianor*)

48* ミヤマカラスアゲハ (*Papilio maackii*)

49* オナガアゲハ (*Papilio macilentus*) 低山帯 (浜益村実田・6月)

シロチョウ科 (Pieridae)

50 エゾシロチョウ (*Aporia crataegi*) 低山帯 (7月)

51 モンキチョウ (*Colias erate*) 全域 (7・8月)

52 モンシロチョウ (*Pieris rapae*) 雨竜沼 (7・8月)

53 エゾスジグロシロチョウ (*Pieris napi*) 低山帯 (浜益村尻内・5月) 雨竜沼 (7月),
高山帯 (7月)

54 スジグロシロチョウ (*Pieris melete*) 雨竜沼 (7月), 高山帯 (7月)

55 エゾヒメシロチョウ (*Leptidea morsei*) 低山帯 (浜益村実田・5月; 増毛町山の神・
5月)

56 ツマキチョウ (*Anthocharis scolymus*) 低山帯 (浜益村実田・5月)

シジミチョウ科 (Lycaenidae)

57 アカシジミ (*Japonica lutea*) 低山帯 (7月)

58* ウラナミアカシジミ (*Japonica saepestriata*)

59* ミドリシジミ (*Neozephyrus taxila*)

60 アイノミドリシジミ (*Chrysozephyrus aurorinus*) 低山帯 (8月)

61* カラスシジミ (*Strymonidia w-album*)

62 コツバメ (*Callophrys ferrea*) 低山帯 (浜益村尻内・5月; 増毛町の神・5月)

63* カバイロシジミ (*Glaucopteryx lycormas*) 低山帯 (浜益村実田・6月)

64 ルリシジミ (*Celastrina argiolus*) 低山帯 (5月・7月), 雨竜沼 (7月)

65* ツバメシジミ (*Everes argiades*)

66* ヒメシジミ (*Plebejus argus*)

タテハチョウ科 (Nymphalidae)

67* カラフトヒョウモン (*Clossiana iphigenia*) 低山帯 (浜益村実田・6月)

68* コヒョウモン (*Brenthis ino*)

69* ウラギンスジヒョウモン (*Argyronome laodice*)

70* オオウラギンスジヒョウモン (*Argyronome ruslana*)

71 ミドリヒョウモン (*Argynnis paphia*) 低山帯 (7月)

72* ギンボシヒョウモン (*Speyeria aglaja*)

73 ウラギンヒョウモン (*Fabriciana adippe*) 低山帯 (7月)

74 イチモンジチョウ (*Limenitis camilla*) 低山帯 (7月)

75* コミスジ (*Neptis sappho*)

76* ミスジチョウ (*Neptis phillyra*)

77 サカハチチョウ (*Araschnia burejana*) 低山帯 (7月)

78* シータテハ (*Polygonia c-album*)

79* エルタテハ (*Nymphalis van-album*)

80* キベリタテハ (*Nymphalis antiopa*)

81* ルリタテハ (*Kaniska canace*)

82 クジャクチョウ (*Inachis io*) 全域 (5・7・8月)

83 コヒオドシ (*Aglaia urticae*) 全域 (7月)

84* アカタテハ (*Vanessa indica*)

85 コムラサキ (*Apatura ilia*) 低山帯 (7月)

86* ゴマダラチョウ (*Hestina japonica*) 低山帯 (浜益村実田)

87 オオムラサキ (*Sasakia charonda*) 低山帯 (浜益村実田・5月幼虫採集)

ジャノメチョウ科 (Satyridae)

88 ヒメウラナミジャノメ (*Ypthima argus*) 低山帯 (7月)

89 ベニヒカゲ (*Erebia nipponica*) 雨竜沼 (8月)

90 ヒメキマダラヒカゲ (*Harima callipteris*) 全域 (7・8月)

91* オオヒカゲ (*Ninguta schrenckii*)

92 クロヒカゲ (*Lethe diana*) 低山帯 (7・8月)

93 ヤマキマダラヒカゲ (*Neope nipponica*) 高山帯 (7月)

94 サトキマダラヒカゲ (*Neope goschkevitschii*) 雨竜沼 (7月)

セセリチョウ科 (Hesperiidae)

95 キバネセセリ (*Bibasis aquilina*) 低山帯 (7月)

96 コチャバネセセリ (*Thoressa varia*) 全域 (7月)

97* キマダラセセリ (*Potanthus flavum*)

98* オオチャバネセセリ (*Polytremis pellucida*)

〔蛾類〕

コバネガ科 (Micropterigidae)

99 モンフタオビコバネ (*Micropterix aureatella*) 高山帯 (7月)

コウモリガ科 (Hepialidae)

100 キタコウモリ (*Korscheltellus fuscobulbosus*) 低山帯 (7月)

ハマキガ科 (Tortricidae)

- 101 アカトビハマキ (*Pandemis cinnamomeana*) 低山帯 (7・8月)
 102 ウストビハマキ (*Pandemis chloragrapt*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
 103 オオアトキハマキ (*Archips ingentanus*) 低山帯 (7・8月)
 104 アミメキイロハマキ (*Ptycholoma imitator*) 低山帯 (7・8月)
 105 オオハイジロハマキ (*Pseudeula asinana*) 低山帯 (5月)
 106 フタモンコハマキ (*Argyrotaenia liratana*) 低山帯 (7・8月)
 107 ネウスハマキ (*Croesia conchyloides*) 低山帯 (7・8月)
 108 イグサヒメハマキ (*Bactra furfurana*) 雨竜沼 (7月)
 109 コシロモンヒメハマキ (*Statherotmantis shicotana*) 雨竜沼 (7月)
 110 キモンヒメハマキ (*Statherotmantis pictana*) 低山帯 (7月)
 111 シラフオオヒメハマキ (*Hedya vicinana*) 低山帯 (7・8月)
 112 ナカグロツマジロヒメハマキ (*Apotomis cuphostra*) 低山帯 (7・8月)
 113 スノキツマジロヒメハマキ (*Apotomis vaccini*) 雨竜沼 (7月)
 114 ミヤマウンモンヒメハマキ (*Olethreutes lacunana*) 雨竜沼 (7・8月)
 115 リンゴシロヒメハマキ (*Spilonota ocellana*) 低山帯 (7月)
 116 ミヤマヤナギヒメハマキ (*Epinotia cruciana*) 雨竜沼 (8月)
 117 クロマダラシロヒメハマキ (*Epinotia exquisitana*) 低山帯 (7・8月)
 118 イツカドモンヒメハマキ (*Epinotoa pentagonana*) 低山帯 (8月)
 119 ガレモンヒメハマキ (*Zeiraphera argutana*) 低山帯 (8月)
 120 ヨモギネムシガ (*Epiblema foenella*) 低山帯 (8月)

ホソハマキガ科 (Cochylidae)

- 121 ツマオビホソハマキ (*Phtheochroides apicana*) 低山帯 (8月)
 122 ニセエダオビホソハマキ (*Aethes cnicana*) 低山帯 (8月)
 123 アミメホソハマキ (*Phalonides chlorolitha*) 低山帯 (7・8月)
 124 フトハスジホソハマキ (*Cochylidia contumescens*) 低山帯・雨竜沼 (7月)

ヒロズコガ科 (Tineidae)

- 125 マエモンクロヒロズコガ (*Monopis monachella*) 低山帯 (8月)
 126 クロエリメンコガ (*Opogona nipponica*) 低山帯 (8月)

ハモグリガ科 (Lyonetiidae)

- 127 ポプラシロハモグリ (*Paraleucoptera sinuella*) 雨竜沼 (8月)

ホソガ科 (Gracillariidae)

- 128 オトギリハマキホソガ (*Eucalybites aureola*) 雨竜沼 (8月)
 129 ハンノハマキホソガ (*Caloptilia alni*) 低山帯 (8月)

スガ科 (Yponomeutidae)

- 130 コナガ (*Plutella xylostella*) 低山帯 (7・8月)
 131 メノコクチブサガ (*Ypsolopha amoenella*) 低山帯 (7・8月)

- 132 ミヤマガマズミニセスガ (*Prays iota*) 低山帯 (7月)
 133 シロツバメスガ (*Saridoscelis synodias*) 低山帯 (5月)
 134 ツルウメモドキスガ (*Yponomeuta sociatus*) 低山帯 (8月)
 135 ニシキギスガ (*Yponomeuta kanaellus*) 低山帯 (7月)
 136 ツリバナスガ (*Yponomeuta solitariellus*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)

ムシガ科 (Argyresthiidae)

- 137 シロモンキンムシガ (*Argyresthia brockeella*) 低山帯 (7月)

ホソハマキモドキガ科 (Glyphipterigidae)

- 138 オオホソハマキモドキ (*Glyphipterix beta*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
 139 ヘリグロホソハマキモドキ (*Glyphipterix nigromarginata*) 高山帯 (7月)

マルハキバガ科 (Oecophoridae)

- 140 フキヒラタマルハキバガ (*Agonopterix raseocaudella*) 低山帯 (5月)
 141 フタテンヒラタマルハキバガ (*Agonopterix bipunctifera*) 低山帯 (5月)
 142 キガシラヒラタマルハキバガ (*Agonopterix ochrocephala*) 低山帯 (7・8月)
 143 モンクロヒラタマルハキバガ (*Agonopterix costaemaculella*) 低山帯 (7月)

マダラガ科 (Zygaenidae)

- 144 キスジホソマダラ (*Balataea gracilis*) 低山帯 (7月)
 145 シロシタホタルガ (*Chalcusia remota*) 低山帯 (7月)

メイガ科 (Pyralidae)

- 146 ダイセツツガ (*Chrysoteuchia daisetsuzana*) 雨竜沼 (7月)
 147 キタヒシモンツツガ (*Catoptria pinella*) 低山帯 (8月)
 148 ヒメギンスジツツガ (*Crambus silvellus*) 雨竜沼 (8月)
 149 クロスジツツガ (*Flavocrambus striatellus*) 雨竜沼 (8月)
 150 テンスジツツガ (*Chrysoteuchia distinctella*) 低山帯 (7・8月)
 151 ギンモンミズメイガ (*Nymphula corculina*) 雨竜沼 (7月)
 152 マエクロモンシロノメイガ (*Neohendecasis apiciferalis*) 低山帯 (7月)
 153 マエアカスカシノメイガ (*Palpita nigropunctalis*) 低山帯 (8月), 雨竜沼 (7月)
 154 カギバノメイガ (*Circobotys nycterina*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
 155 モンキクロノメイガ (*Herpetogramma luctuosalis*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
 156 ホシオビホソノメイガ (*Nomis albopedalis*) 雨竜沼 (7月)
 157 キイロノメイガ (*Perinephela lancealis*) 低山帯 (7月)
 158 ヨツボシノメイガ (*Glyphodes quadrimaculalis*) 低山帯 (7月)
 159 トビイロシマメイガ (*Hypsopygia regina*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
 160 ウスアカモンクロマダラメイガ (*Ceropres ophthalmicella*) 低山帯 (7月)

トリバガ科 (Pterophoridae)

- 161 マダラトリバ (*Buckleria paludum*) 雨竜沼 (7月)

カギバガ科 (Drepanidae)

- 162 エゾカギバ (*Nordstromia grisearia*) 雨竜沼 (7月), 低山帯 (8月)
- 163 ウソビカギバ (*Sabra harpagula*) 低山帯 (7月)
- 164 ウスイロカギバ (*Callidrepana palleola*) 低山帯 (8月)
- 165 アシベニカギバ (*Oreta pulchripes*) 低山帯 (7月)
- トガリバガ科 (Thyatiridae)
- 166 モントガリバ (*Thyatira batis*) 低山帯 (7月)
- 167 キマダラトガリバ (*Macrothyatira flavida*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
- 168 ウスベニアヤトガリバ (*Habrosyne dieckmanni*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
- 169 ヒトテントガリバ (*Tetheella fluctuosa*) 低山帯 (7・8月)
- 170 オオマエベニトガリバ (*Tethea consimilis*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
- 171 ギンモントガリバ (*Parapsestis argenteopicta*) 低山帯 (7月)
- 172 ネグロトガリバ (*Mimopsestis basalis*) 低山帯 (7月)
- 173 フタテントガリバ (*Macrothyatira flavida*) 雨竜沼 (7月)
- シャクガ科 (Geometridae)
- 174 オオアヤシャク (*Pachyodes superans*) 低山帯 (8月), 雨竜沼 (7月)
- 175 チズモンアオシャク (*Agathia carissima*) 低山帯 (8月)
- 176 オオシロオビアオシャク (*Geometra papilionaria*) 低山帯 (8月)
- 177 カギシロスジアオシャク (*Geometra dieckmanni*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
- 178 ツマアカナミシャク (*Aplocera perelegans*) 高山帯 (7月)
- 179 アオナミシャク (*Leptostega tenerata*) 低山帯 (7月)
- 180 キアシシロナミシャク (*Xanthorhoe abraxina*) 低山帯 (7月)
- 181 トビスジコナミシャク (*Xanthorhoe designata*) 低山帯 (8月)
- 182 キンオビナミシャク (*Electrophaes corylata*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
- 183 ミヤマナミシャク (*Venusia cambrica*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
- 184 キヒメナミシャク (*Hydrelia flammeolaria*) 雨竜沼 (7月)
- 185 セジロナミシャク (*Laciniodes denigratus*) 低山帯 (8月)
- 186 ホソバナミシャク (*Typloptera bella*) 低山帯 (7・8月)
- 187 キリバナネホソナミシャク (*Brabira artemidera*) 低山帯 (8月)
- 188 フトオビヒメナミシャク (*Eupithecia gigantea*) 低山帯 (8月)
- 189 キガシラオオナミシャク (*Gandaritis agnes*) 低山帯 (8月)
- 190 シロオビヒメエダシャク (*Lomaspilis marginata*) 雨竜沼 (7月)
- 191 ミスジシロエダシャク (*Myrteta unio*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
- 192 ウスクモエダシャク (*Menophra senilis*) 雨竜沼 (7月)
- 193 クワエダシャク (*Menophra atrilineata*) 低山帯 (8月)
- 194 キイロエグリヅマエダシャク (*Odontopera aurata*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
- 195 シロモンクロエダシャク (*Proteostrenia leda*) 低山帯 (7月)

- 196 シロモンキエダシャク (*Parectropis extersaria*) 雨竜沼 (7月)
- 197 キシタエダシャク (*Arichanna melanaria*) 低山帯 (7月)
- 198 ヒョウモンエダシャク (*Arichanna jaguararia*) 低山帯 (8月)
- 199 オオシモフリエダシャク (*Biston betularia*) 低山帯 (8月)
- 200 スモモエダシャク (*Angerona prunaria*) 低山帯 (7月)
- カレハガ科 (Lasiocampidae)
- 201 ヒメカレハ (*Phyllodesma japonica*) 低山帯 (5月)
- 202 オビカレハ (*Malacosoma neustria*) 低山帯 (8月)
- カイコガ科 (Bombycidae)
- 203 オオクワゴモドキ (*Oberthueria falcigera*) 雨竜沼 (7月)
- イボタガ科 (Brahmaeidae)
- 204 イボタガ (*Brahmaea wallichii*) 低山帯 (5月)
- ヤママユガ科 (Saturniidae)
- 205 オオミズアオ (*Actias artemis*) ? 低山帯 (7・8月)
- スズメガ科 (Sphingidae)
- 206 エゾシモフリズメ (*Meganoton scribae*) 雨竜沼 (7月)
- 207 ベニスズメ (*Deilephila elpenor*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
- シャチホコガ科 (Notodontidae)
- 208 ナカキシヤチホコ (*Peridea gigantea*) 低山帯 (7月)
- 209 シャチホコガ (*Stauropus fagi*) 雨竜沼 (7月)
- 210 ウチキシヤチホコ (*Notodonta dembowskii*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
- 211 モンキシロシャチホコ (*Leucodonta bicoloria*) 雨竜沼 (7月)
- 212 エグリシャチホコ (*Ptilodon robusta*) 雨竜沼 (7月), 低山帯 (8月)
- 213 ナカグロモクメシャチホコ (*Furcula lanigera*) 低山帯 (5月)
- 214 ツマアカシャチホコ (*Clostera anachoreta*) 低山帯 (8月)
- 215 クビワシャチホコ (*Shaka atrovittata*) 低山帯 (7・8月)
- 216 カバイロモクメシャチホコ (*Hupodonta corticalis*) 低山帯 (8月)
- 217 ハイイロシャチホコ (*Microphalera grisea*) 雨竜沼 (7月)
- 218 ツマジロシャチホコ (*Hexafrenum leucodera*) 雨竜沼 (7月)
- 219 シロジマシャチホコ (*Pheosia fusiformis*) 低山帯 (7月)
- 220 ハガタエグリシャチホコ (*Hagapteryx admirabilis*) 低山帯 (7月)
- 221 ウスイロギンモンシャチホコ (*Spatialia daerriesi*) 低山帯 (7月)
- ドクガ科 (Lymantriidae)
- 222 ノンネマイマイ (*Lymantria monacha*) 低山帯 (7月)
- 223 モンシロドクガ (*Euproctis similis*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
- ヒトリガ科 (Arctiidae)
- 224 キベリネズミホソバ (*Agylla gigantea*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)

- 225 ヨツボシホソバ (*Lithosia quadra*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
 226 ヒメキホソバ (*Eilema cribrata*) 雨竜沼 (7月)
 227 ハガタバニコケガ (*Miltochrista aberrans*) 低山帯 (7・8月)
 228 スジモンヒトリ (*Spilosoma seriato-punctata*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
 229 ジョウザンヒトリ (*Pericallia matronula*) 低山帯 (7月)
 230 アマヒトリ (*Phragmatobia amurensis*) 低山帯 (7月)
 231 ヒメキシタヒトリ (*Parasemia plantaginis*) 雨竜沼 (7月)
 232 カクモンヒトリ (*Spilosoma inaequalis*) 低山帯 (8月)

コブガ科 (Nolidae)

- 233 クロスジコブガ (*Meganola fumosa*) 低山帯 (7月)

ヤガ科 (Noctuidae)

- 234 ウスベリケンモン (*Anacronicta nitida*) 低山帯 (7月)
 235 ナマリケンモン (*Anacronicta plumbea*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
 236 キバラケンモン (*Trichosea champa*) 雨竜沼 (7月)
 237 アオケンモン (*Belciades niveola*) 低山帯 (7月)
 238 ゴマケンモン (*Moma alpinum*) 低山帯 (8月)
 239 スギタニゴマケンモン (*Harrisimemna marmorata*) 低山帯 (7月)
 240 シロケンモン (*Acrionicta leporina*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
 241 オオケンモン (*Acrionicta major*) 低山帯 (7・8月)
 242 サクラケンモン (*Hyboma adaucta*) 低山帯 (7月)
 243 ジョウザンケンモン (*Hyboma jozana*) 低山帯 (7月)
 244 リンゴケンモン (*Triaena intermedia*) 雨竜沼 (7月)
 245 オオホソバケンモン (*Triaena cuspidata*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
 246 ハンノケンモン (*Jocheaera alni*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
 247 キシタケンモン (*Hylonycta catocaloida*) 雨竜沼 (7月)
 248 ナシケンモン (*Viminia rumicis*) 低山帯 (7月)
 249 ニッコウケンモン (*Craniophora praeclara*) 低山帯 (7月)
 250 イボタケンモン (*Craniophora ligustri*) 低山帯 (8月)
 251 イチモンジキノコヨトウ (*Bryophila granitalis*) 低山帯 (8月)
 252 アオキノコヨトウ (*Stenoloba assimilis*) 低山帯 (8月)
 253 シロスジキノコヨトウ (*Stenoloba jankowskii*) 低山帯 (7・8月)
 254 ツメクサガ (*Heliothis maritima*) 低山帯 (8月)
 255 ムギヤガ (*Euxoa oberthueri*) 低山帯 (8月), 雨竜沼 (7月)
 256 クモウスグロヤガ (*Euxoa islandica*) 雨竜沼 (7月)
 257 ウスグロヤガ (*Euxoa sibirica*) 雨竜沼 (7月)
 258 カブラヤガ (*Agrotis segetum*) 低山帯 (8月)
 259 ホソアオバヤガ (*Ochropleura praecox*) 雨竜沼 (7月)

- 260 オオホソアオバヤガ (*Ochropleura praecurrens*) 雨竜沼 (7月)
 261 マエジロヤガ (*Ochropleura plecta*) 雨竜沼 (7月)
 262 ナカグロヤガ (*Noctua undosa*) 雨竜沼 (7月)
 263 ホシボシヤガ (*Hermonassa arenosa*) 低山帯 (8月)
 264 シロオビハイイロヤガ (*Spaelotis lucens*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
 265 カバスジャガ (*Sineugraphe exusta*) 雨竜沼 (7月)
 266 ウスイロカバスジャガ (*Sineugraphe disgnosta*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
 267 ミヤマアカヤガ (*Diarsia brunnea*) 低山帯 (8月), 雨竜沼 (7月)
 268 モンキヤガ (*Diarsia dewitzi*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
 269 タンボヤガ (*Xestia ditrapezium*) 雨竜沼 (7月)
 270 ハイイロキシタヤガ (*Xestia semiherbida*) 低山帯 (8月)
 271 アオバヤガ (*Anaplectoides prasina*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
 272 オオアオバヤガ (*Anaplectoides virens*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
 273 オオシラホシヤガ (*Eurois occulta*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
 274 カギモンヤガ (*Cerastis pallescens*) 低山帯 (5月)
 275 オオシモフリヨトウ (*Polia goliath*) 低山帯 (8月)
 276 シラホシヨトウ (*Melanchra persicariae*) 雨竜沼 (7月), 低山帯 (8月)
 277 ヨトウガ (*Memestra brassicae*) 低山帯 (7月)
 278 ムラサキヨトウ (*Lacanobia contigua*) 低山帯 (7月)
 279 シロシタヨトウ (*Sarcopolia illoba*) 低山帯 (8月)
 280 スギタニキリガ (*Perigrappa hoenei*) 低山帯 (5月)
 281 キンイロキリガ (*Clavipalpura aurariae*) 低山帯 (5月)
 282 ミヤマカバキリガ (*Orthosia incerta*) 低山帯 (5月)
 283 カバキリガ (*Orthosia evanida*) 低山帯 (5月)
 284 アオヤマキリガ (*Orthosia aoyamensis*) 低山帯 (5月)
 285 ホソバキリガ (*Orthosia angustipennis*) 低山帯 (5月)
 286 スモモキリガ (*Orthosia munda*) 低山帯 (5月)
 287 チャイロキリガ (*Orthosia odiosa*) 低山帯 (5月)
 288 カシワキリガ (*Orthosia gothica*) 低山帯 (5月)
 289 マダラキヨトウ (*Aletia flavostigma*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
 290 アワヨトウ (*Pseudaletia separata*) 低山帯 (8月)
 291 ハイイロセダカモクメ (*Cucullia maculosa*) 低山帯 (8月)
 292 タカネキクセダカモクメ (*Cucullia ledereri*) 雨竜沼 (7月)
 293 ヌカビラネジロキリガ (*Brachylomia viminalis*) 低山帯 (8月)
 294 モンハイイロキリガ (*Lithophane plumbealis*) 低山帯 (5月)
 295 ナカグロホソキリガ (*Lithophane socia*) 低山帯 (5月)
 296 テンスジキリガ (*Conistra fletcheri*) 低山帯 (5月)

297 ミヤマオビキリガ (*Conistra grisescens*) 低山帯 (5月)
298 ミヤマハガタヨトウ (*Blepharita bathensis*) 雨竜沼 (7月)
299 スジアカヨトウ (*Apamea striata*) 低山帯 (7月)
300 アカモクメヨトウ (*Apamea aquila*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
301 マツバラシラクモヨトウ (*Apamea remissa*) 雨竜沼 (7月)
302 オオアカヨトウ (*Apamea lateritia*) 雨竜沼 (7月), 低山帯 (8月)
303 ネスジシラクモヨトウ (*Apamea hampsoni*) 低山帯 (7・8月)
304 ヒメハガタヨトウ (*Apamea commixta*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
305 セスジヨトウ (*Apamea scolopacina*) 低山帯 (8月)
306 マエアカシロヨトウ (*Leucapamea kawadaï*) 雨竜沼 (7月)
307 コマエアカシロヨトウ (*Leucapamea askoldis*) 低山帯 (7・8月)
308 セアカヨトウ (*Oligia fodinae*) 低山帯 (8月)
309 ヨコスジヨトウ (*Mesoligia furuncula*) 雨竜沼 (7月)
310 ハイロヨトウ (*Parastichtis suspecta*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
311 サッポロチャイロヨトウ (*Sapporia repetita*) 低山帯 (8月)
312 ショウブヨトウ (*Amphipoea ussuriensis*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
313 ショウブオオヨトウ (*Celaena leucostigma*) 雨竜沼 (7月), 低山帯 (8月)
314 ウスキシタヨトウ (*Triphaenopsis cinerescens*) 低山帯 (8月)
315 ナカジロキシタヨトウ (*Triphaenopsis postflava*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
316 アカガネヨトウ (*Euplexia lucipara*) 低山帯 (7月)
317 ムラサキアカガネヨトウ (*Euplexia vinacea*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
318 シラオビアカガネヨトウ (*Euplexia illustrata*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
319 コゴマヨトウ (*Euplexia bella*) 低山帯 (8月)
320 モンキアカガネヨトウ (*Euplexia aureopuncta*) 低山帯 (7・8月)
321 シロフアオヨトウ (*Xenotrachea nipponica*) 雨竜沼 (7月)
322 キグチヨトウ (*Phlogophora beatrix*) 低山帯 (7月)
323 スジクロモクメヨトウ (*Dypterygia andreji*) 低山帯 (8月)
324 モクメヨトウ (*Axylia putris*) 雨竜沼 (7月)
325 ハガタアオヨトウ (*Trachea tokiensis*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
326 アオアカガネヨトウ (*Karana laetevirens*) 低山帯 (7・8月)
327 ヒメサビスジヨトウ (*Athetis stellata*) 低山帯 (8月)
328 シロテンウスグロヨトウ (*Athetis albisignata*) 低山帯 (8月)
329 シマカラスヨトウ (*Amphipyra pyramidea*) 雨竜沼 (8月)
330 ツマジロカラスヨトウ (*Amphipyra schrenckii*) 雨竜沼 (7月), 低山帯 (8月)
331 オオウスヅマカラスヨトウ (*Amphipyra erebina*) 低山帯 (8月)
332 ミヤマキリガ (*Cosmia unicolor*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
333 ミカズキキリガ (*Cosmia cara*) 低山帯 (8月)

334 シラオビキリガ (*Cosmia camptostigma*) 雨竜沼 (7月)
335 イタヤキリガ (*Cosmia exigna*) 低山帯 (8月)
336 ナシキリガ (*Cosmia pyralina*) 低山帯 (8月)
337 ヤンコウスキーキリガ (*Xanthocosmia jankowski*) 低山帯 (8月)
338 マダラキボシキリガ (*Dimorphicosmia variegata*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
339 ヤナギキリガ (*Ipimorpha retusa*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
340 ウシタキリガ (*Enargia paleacea*) 低山帯 (8月)
341 ハルトギンガ (*Chasminodes albonitens*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
342 クロハナギンガ (*Chasminodes sugii*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
343 アイノクロハナギンガ (*Chasminodes aino*) 低山帯 (8月)
344 エゾクロギンガ (*Chasminodes cilia*) 低山帯 (8月)
345 ウラギンガ (*Chasminodes nervosa*) 低山帯 (7・8月)
346 ベニモンヨトウ (*Oligonyx vulnerata*) 低山帯 (8月)
347 マエホシヨトウ (*Pyrrhivalva sordida*) 低山帯 (8月)
348 ヒメシマヨトウ (*Eucarta arctides*) 低山帯 (7月)
349 マダラツマキリヨトウ (*Callopietria repleta*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
350 マルモンシロガ (*Sphragifera sigillata*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
351 ハネモンリンガ (*Kerala decipiens*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
352 クロオビリンガ (*Gelastocera exusta*) 低山帯 (8月)
353 カマフリンガ (*Macrochthonia fervens*) 低山帯 (7・8月)
354 アオスジアオリンガ (*Pseudoips fagana*) 雨竜沼 (7月)
355 ギンボシリンガ (*Ariolica argentea*) 雨竜沼 (7月)
356 トビモンコヤガ (*Lithacodia brunnea*) 低山帯 (7月)
357 スジシロコヤガ (*Lithacodia falsa*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
358 エゾコヤガ (*Neustrotia noloides*) 低山帯 (7月)
359 ウスアオモンコヤガ (*Bryophilina mollicula*) 低山帯 (7月)
360 モンキコヤガ (*Hyperstrotia flavipuncta*) 雨竜沼 (7月)
361 フタオビコヤガ (*Naranga aenescens*) 雨竜沼 (7月)
362 エゾキンウワバ (*Euchalcia sergia*) 低山帯 (7月)
363 シーモンキンウワバ (*Lamprotes mikadina*) 低山帯 (7月)
364 ギンボシキンウワバ (*Antoculeora ornatissima*) 雨竜沼 (7月)
365 ガマキンウワバ (*Autographa gamma*) 低山帯 (8月), 雨竜沼 (7月)
366 オオムラサキキンウワバ (*Autographa amurica*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
367 エゾムラサキウワバ (*Autographa urupina*) 低山帯 (8月)
368 タンポキンウワバ (*Autographa excelsa*) 雨竜沼 (7月)
369 イネキンウワバ (*Plusia festucae*) 低山帯 (8月)
370 オオキンウワバ (*Diachrysia chryson*) 低山帯 (8月)

- 371 オオヒサゴキンウワバ (*Diachrysa stenochrysis*) 低山帯 (7・8月), 雨竜沼 (7月)
- 372 ミツモンキンウワバ (*Acanthoplusia agnata*) 雨竜沼 (7月)
- 373 オオシロシタバ (*Catocala lara*) 低山帯 (8月)
- 374 エゾベニシタバ (*Catocala nupta*) 低山帯 (8月), 雨竜沼 (7月)
- 375 オニベニシタバ (*Catocala dula*) 低山帯 (8月)
- 376 ケンモンキシタバ (*Catocala deuteronympha*) 低山帯 (8月)
- 377 ワモンキシタバ (*Catocala fulminea*) 低山帯 (8月)
- 378 エゾシロシタバ (*Catocala dissimilis*) 低山帯 (8月)
- 379 ウスクビグロクチバ (*Lygephila viciae*) 低山帯 (7月)
- 380 ウスエグリバ (*Calyptra thalictri*) 低山帯 (8月)
- 381 アケビコノハ (*Adris tyrannus*) 雨竜沼 (7月)
- 382 アヤシラフクチバ (*Synnoides hercules*) 低山帯 (7・8月)
- 383 シロモンツマキリアツバ (*Pangrapta umbrosa*) 低山帯 (7月)
- 384 ミカドアツバ (*Lophomilia flaviplaga*) 低山帯 (8月)
- 385 ムラサキアツバ (*Diomea cremata*) 低山帯 (7月)
- 386 ヒトスジアツバ (*Hypena tatorhina*) 低山帯 (7月)
- 387 フタオビアツバ (*Hypena proboscidalis*) 低山帯 (8月)
- 388 チャバネフタオビアツバ (*Hypena* sp.) 低山帯 (8月)
- 389 ミヤマソトジロアツバ (*Bomolocha bipartita*) 低山帯・雨竜沼 (7月)
- 390 シラクモアツバ (*Bomolocha zilla*) 雨竜沼 (7月)
- 391 マルモンウスツマアツバ (*Bomolocha bicoloralis*) 低山帯 (8月)
- 392 ハナマガリアツバ (*Hadennia incongruens*) 低山帯 (7・8月)
- 393 シロモンアツバ (*Paracolax albinotata*) 低山帯 (8月)
- 394 オビアツバ (*Paracolax fascialis*) 低山帯 (7・8月)
- 395 クロスジアツバ (*Herminia nemoralis*) 低山帯 (8月)
- トラガ科 (Agaristidae)
- 396 マイコトラガ (*Maikona jezoensis*) 低山帯 (5月)
- XI 鞘翅目 (COLEOPTERA)
- オサムシ科 (Carabidae)
- 397*ヒメクロオサムシ (*Carabus opaculus*) 低山帯・雨竜沼
- 398*エゾクロナガオサムシ (*Carabus arboreus*) 低山帯
- 399*オオルリオサムシ (*Damaster gehini*) 低山帯・雨竜沼
- 400*エゾマイマイカブリ (*Damaster blaptoides rugipennis*) 低山帯
- ミズスマシ科 (Gyrinidae)
- 401 ミズスマシ (*Gyrinus japonicus*) 雨竜沼 (7・8月)
- シデムシ科 (Silphidae)
- 402 ヨツボシモンシデムシ (*Nicrophorus quadripunctatus*) 低地帯 (7月)

- 403 クロシデムシ (*Nicrophorus concolor*) 雨竜沼 (7月)
- 404 クロヒラタシデムシ (*Phosphuga atrata*) 低山帯 (5月)
- クワガタムシ科 (Lucanidae)
- 405 オニクワガタ (*Prismognathus angularis*) 低山帯 (7・8月)
- 406 アカアシクワガタ (*Nipponodorcus rubrofemoratus*) 低山帯 (7月)
- コガネムシ科 (Scarabaeidae)
- 407 クロホシビロウドコガネ (*Ophthalmoserica nigrovariata*) 低山帯 (7月・8月)
- 408 ナガチャコガネ (*Heptophylla picea*) 低山帯 (8月)
- 409 ヒメコガネ (*Anomala rufocuprea*) 低山帯 (8月)
- コメツキムシ科 (Elateridae)
- 410 ミドリツヤハダコメツキ (*Mucromorphus montanus*) 雨竜沼・高山帯 (7月)
- 411 エゾヒラタコメツキ (*Actenicerus selectus*) 全域 (7月)
- ジョウカイボン科 (Cantharidae)
- 412 キベリジョウカイ (*Podabrus longissimus*) 雨竜沼 (7月)
- 413 ウスイロクビボンジョウカイ (*Podabrus temporalis*) 雨竜沼・高山帯 (7月)
- 414 クロヒメジョウカイ (*Rhagonycha caroli*) 雨竜沼 (7月)
- 415 ヒメジョウカイ (*Rhagonycha japonica*) 雨竜沼 (7月)
- 416 アオジョウカイ (*Themus cyanipennis*) 全域 (7月)
- ホタル科 (Lampyridae)
- 417 オバボタル (*Lucidina biplagiata*) 低山帯 (7月)
- ジョウカイモドキ科 (Melyridae)
- 418 ケシジョウカイモドキ (*Dasytes vulgaris*) 雨竜沼・高山帯 (7月)
- ベニボタル科 (Lycidae)
- 419 スジグロベニボタル (*Pristolycus sagulatus*) 低山帯 (7月)
- アカハネムシ科 (Pyrochroidae)
- 420 ウスイロアカハネムシ (*Pseudopyrochroa episcopalis*) 低山帯 (7月)
- 421 アカハネムシ (*Pseudopyrochroa vestiflua*) 低山帯 (7月)
- カミキリモドキ科 (Oedemeridae)
- 422 キバネカミキリモドキ (*Xanthochroa luteipennis*) 低山帯 (8月)
- 423 マダラカミキリモドキ (*Oncomerella venosa*) 雨竜沼 (7月)
- 424 クロアオカミキリモドキ (*Oedemeria concolor*) 低山帯・高山帯 (7月)
- カミキリムシ科 (Cerambycidae)
- 425 カラカネハナカミキリ (*Gaurotes doris*) 低山帯 (8月)
- 426 セスジヒメハナカミキリ (*Pidonia amentata*) 低山帯 (7月)
- 427 ルリハナカミキリ (*Anoploderomorpha cyanea*) 低山帯 (7月)
- 428 ホクチチビハナカミキリ (*Alosterna tabacicolor*) 低山帯・高山帯 (7月)
- 429 アカハナカミキリ (*Corymbia succedanea*) 低山帯 (8月)

- 430 ヤツボシハナカミキリ (*Leptura arcuata*) 低山帯 (7月)
 431 クロハナカミキリ (*Leptura aethiops*) 低山帯 (7・8月)
 432 ヨツスジハナカミキリ (*Leptura ochraceofasciata*) 低山帯 (7・8月)
 433 キスジトラカミキリ (*Cyrtoclytus caproides*) 低山帯 (7月)
 434 ヒメクロトラカミキリ (*Rhaphuma diminuta*) 低山帯 (7月)
 435 クリイロチビケブカカミキリ (*Terinaea atrofusca*) 低山帯 (7・8月)
 436 シラホシカミキリ (*Glenea relictata*) 低山帯 (7月)
 437 クロニセリンゴカミキリ (*Eumecocera unicolor*) 低山帯 (7月)
 438 ハンノアオカミキリ (*Eutetrappa chrysochloris*) 低山帯 (7・8月)
 439 センノキカミキリ (*Acalolepta luxuriosa*) 低山帯 (8月)
 440 シナカミキリ (*Eutetrappa sedecimpunctata*) 低山帯 (7・8月)
- ハムシ科 (Chrysomelidae)
- 441 スゲハムシ (*Plateumaris sericea*) 雨竜沼 (7月)
 442 オオネクイハムシ (*Plateumaris constricticollis*) 雨竜沼 (7月)
 443 スゲハムシの1種 (*Plateumaris* sp) 雨竜沼 (7月)
 444 アオチビツツハムシ (*Cryptocephalus pumilo*) 雨竜沼 (7月)
 445 コニシケブカハムシ (*Pyrrhalta konishii*) ? 雨竜沼 (7月)
- オトシブミ科 (Attelabidae)
- 446 オオコブオトシブミ (*Phymatopoderus latipennis*) 低山帯 (7月)

(2) 島嶼部 (焼尻島・天売島)

I 蜻蛉目 (ODONATA)

アオイトトンボ科 (Lestidae)

- 1 アオイトトンボ (*Lestes sponsa*) 焼尻島

ヤンマ科 (Aeschnidae)

- 2 オオルリボシヤンマ (*Aeschna nigroflava*) 焼尻島

トンボ科 (Libellulidae)

- 3 マユタテアカネ (*Sympetrum eroticum*) 焼尻島・天売島
 4 ウスバキトンボ (*Pantala flavescens*) 焼尻島・天売島

II 直翅目 (ORTHOPTERA)

バッタ科 (Locustidae)

- 5 ミヤマフキバッタ (*Parapodisma mikado*) 天売島
 6 イナゴモドキ (*Parapleurus alliaceus*) 天売島
 7 ヒナバッタ (*Chorthippus bicolor*) 天売島

カマドウマ科 (Stenopelmatidae)

- 8 マダラカマドウマ (*Diestrammena japonica*) 天売島

III 半翅目 (HEMIPTERA)

カメムシ科 (Pentatomidae)

- 9 チャバネアオカメムシ (*Plantia crossata*) 天売島

ツノカメムシ科 (Acanthosomatidae)

- 10 セアカツノカメムシ (*Acanthosoma denticauda*) 天売島
 11 ベニモンカメムシ (*Elasmotethus humeralis*) 焼尻島・天売島

アメンボ科 (Gerridae)

- 12 アメンボ (*Gerris paludum*) 天売島

セミ科 (Cicadidae)

- 13 エゾゼミ (*Tibicen japonicus*) 天売島
 14 コエゾゼミ (*Tibicen bihamatus*) 天売島

IV 脈翅目 (NEUROPTERA)

クサカゲロウ科 (Chrysopidae)

- 15 ナナホシクサカゲロウ (*Chrysopa septempunctata*) 天売島

V 鱗翅目 (LEPIDOPTERA)

[蝶類]

アゲハチョウ科 (Papilionidae)

- 16 キアゲハ (*Papilio machaon*) 焼尻島・天売島

シロチョウ科 (Pieridae)

- 17 モンキチョウ (*Colias erate*) 焼尻島・天売島
 18 モンシロチョウ (*Pieris rapae*) 焼尻島・天売島

シジミチョウ科 (Lycaenidae)

- 19 ウスイロオナガシジミ (*Antigius butleri*) 焼尻島
 20 ジョウサンミドリシジミ (*Favonius cognatus*) 焼尻島
 21 アイノミドリシジミ (*Chrysozephyrus aurorinus*) 焼尻島
 22 ベニシジミ (*Lycaena phlaeas*) 焼尻島・天売島
 23 ゴマシジミ (*Maculinea teleius*) 天売島・焼尻島
 24 ルリシジミ (*Celastrina argiolus*) 焼尻島・天売島

ジャノメチョウ科 (Satyridae)

- 25 ジャノメチョウ (*Minois dryas*) 天売島・焼尻島

タテハチョウ科 (Nymphalidae)

- 26 アカタテハ (*Vanessa indica*) 焼尻島・天売島

セセリチョウ科 (Hesperiidae)

- 27 コキマダラセセリ (*Ochlodes venata*) 焼尻島・天売島

[蛾類]

ハマキガ科 (Tortricidae)

- 28 ウスアミメハマキ (*Pandemis corylana*) 焼尻島

- 29 アカトビハマキ (*Pandemis cinnamomeana*) 天売島
 30 アトボシハマキ (*Hoshinoa longicellana*) 焼尻島
 31 アミメキイロハマキ (*Ptycholoma imitator*) 焼尻島・天売島
 32 マダラギンスジハマキ (*Pseudargyrotoza aeratana*) 天売島
 33 ウンモンハマキ (*Croesia aurichalcana*) 焼尻島
 34 ネウスハマキ (*Croesia conchyloides*) 焼尻島
 35 ツママルモンヒメハマキ (*Eudemis profundana*) 焼尻島
 36 ツマキオオヒメハマキ (*Pseudohedya elaborata*) 焼尻島
 37 リンゴシロヒメハマキ (*Spilonota ocellana*) 焼尻島・天売島
 38 ネグロヒメハマキ (*Gypsonoma ephoropa*) 天売島
 39 ヨモギネムシガ (*Epiblema foenella*) 天売島
 40 サンカクモンヒメハマキ (*Cydia glandicolana*) 焼尻島
 ハモグリガ科 (Lyonetiidae)
 41 ポプラシロハモグリ (*Paraleucoptera sinuella*) 天売島
 ホソガ科 (Gracillariidae)
 42 シロハマキホソガ (*Gracillaria albicapitata*) 天売島
 スガ科 (Yponomeutidae)
 43 ウスイロクチブサガ (*Ypsolopha parenthesellus*) 焼尻島
 メムシガ科 (Argyresthiidae)
 44 ナナカマドメムシガ (*Argyresthia alpha*) 天売島
 ホソハマキモドキ科 (Glyphipterigidae)
 45 ツマキホソハマキモドキ (*Lepidotarphius perornatella*) 天売島
 マルハキバガ科 (Oecophoridae)
 46 キガシラヒラタマルハキバガ (*Agonopterix ochrocephala*) 天売島
 47 クロマイコモドキ (*Lamprystica igneola*) 焼尻島・天売島
 ヒゲナガキバガ科 (Lecithoceridae)
 48 ゴマフシロキバガ (*Odites leucostola*) 焼尻島
 ホソハマキガ科 (Cochylidae)
 49 ヨモギオオホソハマキ (*Phtheochroides clandestina*) 天売島
 メイガ科 (Pyraliidae)
 50 ウスクロスジツトガ (*Chrysoteuchia diplogramma*) 焼尻島
 51 ニセシロスジツトガ (*Crambus pseudargyrophorus*) 焼尻島・天売島
 52 ツトガ (*Ancylolomia japonica*) 焼尻島
 53 テンスジツトガ (*Chrysoteuchia distinctella*) 焼尻島・天売島
 54 フタオビノメイガ (*Trichophysetis cretacea*) 天売島
 55 ウコンノメイガ (*Pleuroptya ruralis*) 天売島
 56 マエアカスカシノメイガ (*Palpita nigropunctalis*) 焼尻島・天売島

- 57 モンキクロノメイガ (*Herpetogramma luctuosalis*) 焼尻島・天売島
 58 キムジノメイガ (*Prodasyncnemis inornata*) 焼尻島
 59 シロアヤヒメノメイガ (*Diasemia litterata*) 天売島
 60 クロフトメイガ (*Termioptycha nigrescens*) 焼尻島・天売島
 61 トビイロシマメイガ (*Hypsopygia regina*) 天売島
 62 ツマキシマメイガ (*Orthopygia placeus*) 焼尻島
 63 ウスアカモンクロマダラメイガ (*Ceropres ophthalmicella*) 天売島
 シャクガ科 (Geometridae)
 64 コヨツメアオシャク (*Comostola subtiliaria*) 天売島
 65 トビスジコナミシャク (*Xanthorhoe designata*) 天売島
 66 フタシロスジナミシャク (*Epirrhoe supergressa*) 天売島
 67 ムスジシロナミシャク (*Asthena nymphaeata*) 焼尻島
 68 ウストビモンナミシャク (*Eulithis ledereri*) 天売島
 69 ヨコジマナミシャク (*Eulithis convergenata*) 焼尻島・天売島
 70 シロオビヒメエダシャク (*Lomaspilis marginata*) 天売島
 71 マルハグルマエダシャク (*Synegia ichinosawana*) 焼尻島
 72 ウスクモエダシャク (*Menophra senilis*) 焼尻島
 73 キイロエグリツマエダシャク (*Odontopera aurata*) 天売島
 74 フトフタオビエダシャク (*Ectropis bistortata*) 天売島
 75 オオシロエダシャク (*Metabraxas clerica*) 天売島
 76 オオバナミガタエダシャク (*Hypomecis lunifera*) 焼尻島
 77 マツオオエダシャク (*Deileptenia ribeata*) 焼尻島
 78 ツマキリエダシャク (*Endropiodes abjectus*) 焼尻島
 79 シロツバメエダシャク (*Ourapteryx maculicaudaria*) 焼尻島
 カレハガ科 (Lasiocampidae)
 80 ヨシカレハ (*Philudoria potatoria*) 焼尻島・天売島
 スズメガ科 (Sphingidae)
 81 エゾシモフリスズメ (*Meganoton scriba*) 焼尻島
 82 コスズメ (*Theretra japonica*) 天売島
 シャチホコガ科 (Notodontidae)
 83 ナカキシヤチホコ (*Peridea gigantea*) 焼尻島
 ドクガ科 (Lymantriidae)
 84 ブチヒゲヤナギドクガ (*Leucoma candida*) 天売島
 85 マイマイガ (*Lymantria dispar*) 天売島
 86 ノンネマイマイ (*Lymantria monacha*) 焼尻島
 87 キドクガ (*Euproctis piperita*) 天売島
 ヒトリガ科 (Arctiidae)

- 88 ヨツボシホソバ (*Lithosia quadra*) 焼尻島
 89 ゴマダラベニコケガ (*Miltochrista pulchra*) 天売島
 90 スジモンヒトリ (*Spilosoma seriatopunctata*) 天売島
 91 シロヒトリ (*Spilosoma niveum*) 天売島
 ヤガ科 (Noctuidae)
 92 サクラケンモン (*Hyboma adaucta*) 焼尻島
 93 ナシケンモン (*Viminia rumicis*) 焼尻島・天売島
 94 ニッコウケンモン (*Craniophora praedara*) 焼尻島
 95 イチモンジキノコヨトウ (*Bryophila granitalis*) 焼尻島・天売島
 96 スジキノコヨトウ (*Cryphia mediofusca*) 天売島
 97 ツメクサガ (*Heliothis maritima*) 天売島
 98 ウスイロカバスジャガ (*Sineugraphe disgnosta*) 焼尻島
 99 マダラキヨトウ (*Aletia flavostigma*) 天売島
 100 アフヨトウ (*Pseudaletia separata*) 焼尻島・天売島
 101 セダカモクメ (*Cucullia perforata*) 天売島
 102 セスジョトウ (*Apamea scolopacina*) 天売島
 103 セアカヨトウ (*Oligia fodinae*) 焼尻島
 104 ホシミミヨトウ (*Mesapamea concinnata*) 焼尻島
 105 マダラヨトウ (*Xenapamea pacifica*) 焼尻島・天売島
 106 ハジマヨトウ (*Bambusiphila vulgaris*) 焼尻島
 107 フキヨトウ (*Hydraecia amurensis*) 天売島
 108 ショウブヨトウ (*Amphipoea ussuriensis*) 天売島
 109 ショウオオヨトウ (*Celaena leucostigma*) 天売島
 110 ハガタウスキヨトウ (*Archanara resoluta*) 焼尻島
 111 ウスキシタヨトウ (*Triphaenopsis cinerescens*) 焼尻島・天売島
 112 シロスジアオヨトウ (*Trachea atriplicis*) 焼尻島
 113 スジキリヨトウ (*Spodoptera depravata*) 焼尻島
 114 ミヤマキリガ (*Cosmia unicolor*) 焼尻島
 115 シラオビキリガ (*Cosmia camptostigma*) 焼尻島
 116 イタヤキリガ (*Cosmia exigua*) 焼尻島
 117 マダラキボシキリガ (*Dimorphicosmia variegata*) 焼尻島
 118 ハルタギンガ (*Chasminodes albonitens*) 焼尻島
 119 クロハナギンガ (*Chasminodes sugii*) 焼尻島・天売島
 120 ベニモンヨトウ (*Oligonyx vulnerata*) 天売島
 121 ヒメサビスジョトウ (*Athetis stellata*) 焼尻島
 122 マダラツマキリヨトウ (*Callopistria repleta*) 焼尻島
 123 マルモンシロガ (*Sphragifera sigillata*) 焼尻島

- 124 アオスジアオリング (*Pseudoips fagana*) 焼尻島
 125 スジシロコヤガ (*Lithacodia falsa*) 焼尻島
 126 タデコヤガ (*Pseudeustrotia candidula*) 天売島
 127 エゾムラサキウワバ (*Autographa urupina*) 焼尻島
 128 オニベニシタバ (*Catocala dula*) 焼尻島
 129 エゾシロシタバ (*Catocala dissimilis*) 焼尻島
 130 クビグロクチバ (*Lygephila maxima*) 焼尻島・天売島
 131 テンクロアツバ (*Rivula sericealis*) 焼尻島・天売島
 132 フタキボシアツバ (*Gynaephila maculifera*) 天売島
 133 ヒメコブヒゲアツバ (*Zanclognatha tarsipen*) 焼尻島・天売島
 134 キイロアツバ (*Zanclognatha helva*) 天売島
 135 ウラジロアツバ (*Zanclognatha stramentacealis*) 焼尻島
 136 クロスジアツバ (*Herminia nemoralis*) 焼尻島
 VI 鞘翅目 (COLEOPTERA)
 オサムシ科 (Carabidae)
 137 コブスジアカガネオサムシ (*Carabus conciliator*) 焼尻島
 シデムシ科 (Silphidae)
 138 ヒラタシデムシ (*Silpha perforata*) 焼尻島
 センチコガネ科 (Geotrupidae)
 139 センチコガネ (*Geotrupes laevistriatus*) 焼尻島
 コガネムシ科 (Scarabaeidae)
 140 カバイロアシナゴガネ (*Ectinohoplia rufipes*) 焼尻島
 141 ヒメコガネ (*Anomala rufocuprea*) 焼尻島・天売島
 142 アオカナブン (*Rhomborrhina japonica*) 焼尻島・天売島
 コメツキムシ科 (Elateridae)
 143 クシコメツキ (*Melanotus legatus*) 天売島
 144 ダンダラコメツキ (*Harminius undosus*) 焼尻島
 145 キバネツヤハダコメツキ (*Athous inornatus*) 焼尻島・天売島
 タマムシ科 (Buprestidae)
 146 ヒメヒラタタマムシ (*Anthaxia proteus*) 焼尻島
 ジョウカイボン科 (Cantharidae)
 147 クリイロジョウカイ (*Cantharis badia*) 焼尻島・天売島
 アカハネムシ科 (Pyrochroidae)
 148 ウスイロアカハネムシ (*Pseudopyrochroa episcopalis*) 焼尻島
 カミキリモドキ科 (Oedemeridae)
 149 キバネカミキリモドキ (*Xanthochroa luteipennis*) 天売島
 ゴミムシダマシ科 (Tenebrionidae)

- 150 エゾホソクビキマワリ (*Stenophanes strigipennis*) 天売島
 151 キマワリ (*Plesiophthalmus nigrocyaneus*) 焼尻島
 カミキリムシ科 (Cerambycidae)
 152 アカハナカミキリ (*Corymbia succedanea*) 焼尻島・天売島
 153 ヨツスジハナカミキリ (*Leptura ochraceofasciata*) 焼尻島・天売島
 154 カタシロゴマフカミキリ (*Mesosa hirsuta*) 焼尻島
 155 アトモンマルケシカミキリ (*Exocentrus lineatus*) 天売島
 156 キッコウモンケシカミキリ (*Exocentrus testudineus*) 焼尻島
 157 ハンノアオカミキリ (*Eutetrappa chrysochloris*) 焼尻島
 ハムシ科 (Chrysomelidae)
 158 ウリハムシモドキ (*Atrachya flavomaculata*) 天売島
 ゾウムシ科 (Curculionidae)
 159 カツオゾウムシ (*Lixus impressiventris*) 天売島
 160 コナラシギゾウ (*Curculio dentipes*) 焼尻島
 161 ツツゾウムシ (*Carcilia strigicollis*) 焼尻島

〔昆虫目録追加〕

(1) 陸域部

鱗翅目〔蝶類〕

シジミチョウ科

- 447* ジョウザンシジミ (*Scolitantides orion*) 低山帯 (浜益村千代志別)

(2) 島嶼部

鱗翅目〔蝶類〕

アゲハチョウ科

- 162* カラスアゲハ (*Papilio bianor*) 焼尻島

- 163* ミヤマカラスアゲハ (*Papilio maackii*) 焼尻島

シロチョウ科

- 164* エゾスジグロシロチョウ (*Pieris napi*) 焼尻島

- 165* スジグロシロチョウ (*Pieris melete*) 焼尻島

シジミチョウ科

- 166* アカシジミ (*Japonica lutea*) 焼尻島

- 167* ミドリシジミ (*Neozephyrus taxila*) 焼尻島

- 168* オオミドリシジミ (*Favonius orientalis*) 焼尻島

- 169* エゾミドリシジミ (*Favonius jezoensis*) 焼尻島

- 170* ツバメシジミ (*Everes argiades*) 焼尻島

- 171* ヒメシジミ (*Plebejus argus*) 焼尻島・天売島

タテハチョウ科

- 172* ウラギンスジヒョウモン (*Argynome laodice*) 焼尻島
 173* ミドリヒョウモン (*Argynnis paphia*) 焼尻島
 174* ヒメアカタテハ (*Cynthia cardui*) 焼尻島
 175* クジャクチョウ (*Inachis io*) 天売島
 ジャノメチョウ科
 176* クロヒカゲ (*Lethe diana*) 焼尻島・天売島
 177* ヤマキマダラヒカゲ (*Neope nipponica*) 焼尻島・天売島
 セセリチョウ科
 178* コチャバネセセリ (*Thoressa varia*) 焼尻島・天売島

